

**第4次静岡市上下水道事業
中期経営計画**

令和3年度 評価報告書

令和5年3月31日

静岡市上下水道事業経営協議会

令和5年3月31日

静岡市公営企業管理者
森下 靖 様

静岡市上下水道事業経営協議会

会長 鈴木 学

しずおか水ビジョンの施策及び事務事業の評価について（報告）

このことについて、本協議会として慎重に審議し、評価結果をとりまとめたので報告します。

《評価の総括》

本評価報告書は、上下水道局の基本構想である「しずおか水ビジョン」の実現に向けて掲げた「静岡市上下水道事業経営戦略」（令和元年度～令和12年度）に基づき、4年間（令和元年度～令和4年度）で取り組む具体的な事務事業を整理した「第4次中期経営計画」における施策及び事務事業の令和3年度実績について、これまで3回にわたり静岡市上下水道事業経営協議会（以下、「本協議会」という。）で審議を重ね、総意としてまとめたものです。

「第4次中期経営計画」の令和3年度評価では、深い意見交換と次期計画に向けた更なる改善につなげるため、外部評価対象を4つの項目（戦略的に重要なもの、新たな取組等を実施したもの、内部評価が「A」未満であるもの、協議会委員が評価対象とすべきとしたもの）に絞り、9つの施策と19の事務事業に対して外部評価を実施しました。

計画期間の3年目となる今回の評価では、上下水道局による自己評価に対しては、おおむね妥当であると判断しましたが、委員からは次のような意見、指摘がありました。

- ・一部の事務事業においては昨年度に引き続き計画した成果指標に届かなかったものがあつたため、後年の計画に影響が出ることがないように、「改善に向けた取組」に示された内容の着実な実施と今後の対応が必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症等の外的要因により、通常の事業実施自体が困難で成果を見込めないものがあつたため、従来の実施手法を見直し、ポストコロナを見据えた事業の改善・実施が必要である。

本評価報告書には上記以外の意見、指摘も記載していますので、これら本協議会からの意見、提言を踏まえ、次年度から新たにスタートする「静岡市上下水道事業経営戦略（改定版）」及び「第5次中期経営計画」を計画どおり推進することにより、適切な事業運営に努めることを期待します。

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 第1章 上下水道事業行政評価制度の概要 | 1 |
| 1 趣旨 | 2 |
| 2 特徴 | 2 |
| 3 流れ | 2 |
| 4 しずおか水ビジョンと第4次中期経営計画の位置付け | 3 |
| 第2章 第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価 | 5 |
| 1 第4次中期経営計画の施策の目的及び事務事業の実施目標 | 6 |
| 2 評価方法 | 12 |
| 3 評価基準 | 13 |
| 4 評価結果のまとめ | 14 |
| 5 各施策等の評価結果 | 16 |
| 1-（1）施策名「重要な管・施設の地震対策」 | 16 |
| 1-（2）施策名「浸水対策」 | 21 |
| 1-（3）施策名「渇水対策」 | 26 |
| 1-（4）施策名「災害時などの対応や体制の確立」 | 28 |
| 2-（1）施策名「管・施設の老朽化対策」 | 31 |
| 2-（2）施策名「施設の効率化」 | 38 |
| 3-（1）施策名「水環境の保護・改善」 | 41 |
| 3-（2）施策名「温暖化対策」 | 45 |
| 3-（3）施策名「資源のリサイクル」 | 49 |
| 4-（1）施策名「安全でおいしい水の安定的な供給」 | 51 |
| 4-（3）施策名「接客・窓口サービスなどの充実」 | 56 |
| 4-（4）施策名「市民参画の推進」 | 61 |
| 5-（1）施策名「業務の効率化」 | 66 |
| 5-（2）施策名「職員の技術習得」 | 69 |
| 5-（3）施策名「財政の健全化」 | 73 |
| 5-（4）施策名「新たな視点に立った上下水道事業の展開」 | 80 |
| 審議経緯 | 83 |
| 第6期 静岡市上下水道事業経営協議会 委員名簿 | 84 |

【第1章】

上下水道事業行政評価制度の概要

1 趣旨

静岡市上下水道事業の行政評価は、しずおか水ビジョンや上下水道事業経営戦略に基づく第4次中期経営計画の政策、施策及び事務事業の達成状況を評価、検証することで、PDCAサイクルにより、計画の目的の実現を図るものである。

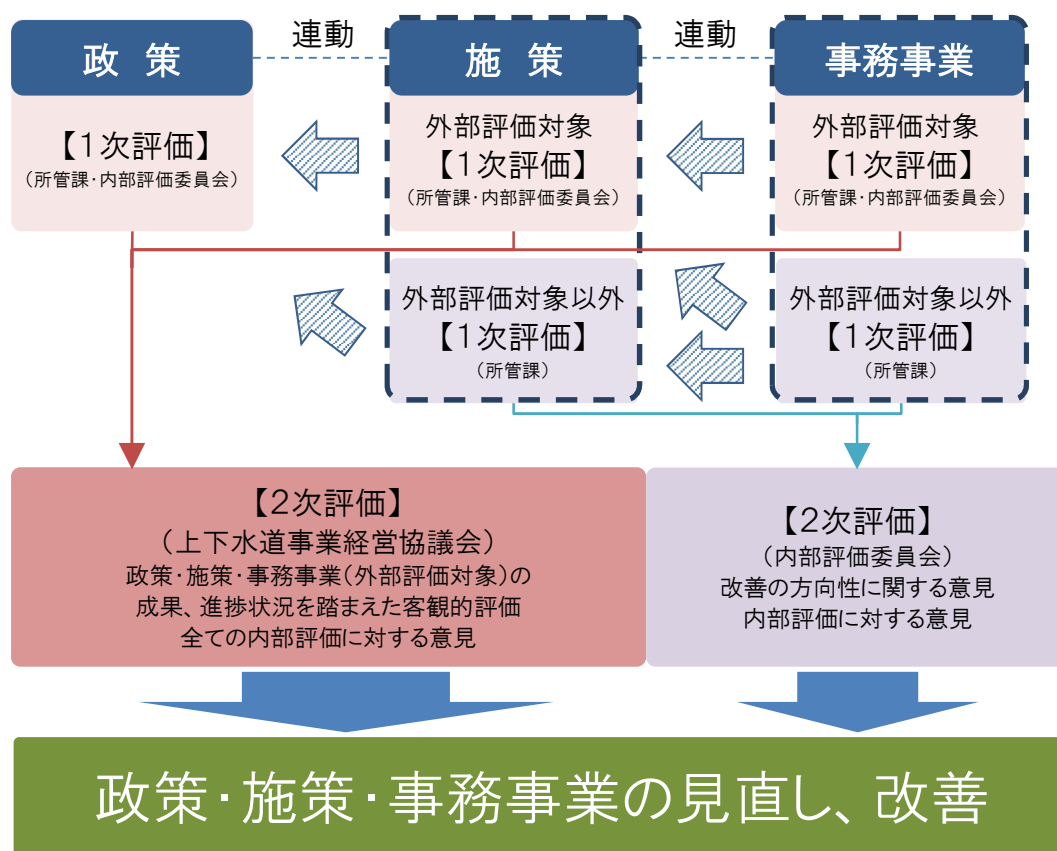
行政評価に当たっては、静岡市上下水道局の行政評価決定機関である静岡市上下水道事業内部評価委員会（以下、「内部評価委員会」という。）が実施した自己評価（1次評価）結果について、市当局から説明を受けたうえで、第三者機関として市民の視点からの外部評価（2次評価）を行った。

また、本協議会は、必要がある場合には、当該内部評価委員会に対し意見、提言を行い、計画のフォローアップと行政評価を通じたマネジメントの向上に関与するものである。

2 特徴

- (1) 行政評価は、第4次中期経営計画に掲げる政策、施策及び事務事業の3階層で評価する。
- (2) 政策評価は4年ごと、施策評価及び事務事業評価は毎年度実施する。

3 流れ



4 しずおか水ビジョンと第4次中期経営計画の位置付け

「しずおか水ビジョン」は、上下水道事業が一体となって長期的に目指す姿を示し、市民への約束として位置付けている。

このビジョンは、将来を見通した「基本構想」と、12年間（令和元年度～令和12年度）の進むべき方向性を示した「上下水道事業経営戦略」、4年間（令和元年度～令和4年度）の具体的な事務事業を示した「第4次中期経営計画」で構成している。

「第4次中期経営計画」は、5つの政策、16の施策及び50の事務事業で構成・体系化され、「しずおか水ビジョン」で掲げた基本構想の実現に向けた成果指標を設定している。



政策3 環境への負荷を軽減する。

- (1) 水環境の保護・改善
 - ①水源涵養林の維持管理【水道】
 - ②下水道計画区域内の整備【下水道】 主要
 - ③水洗化戸数の増加【下水道】 主要
 - ④浄化センターからの放流水質の安定的な維持【下水道】
- (2) 温暖化対策
 - ①自然エネルギーの活用【水道】 主要 改定
 - ②省エネルギー対策【共通】 主要
- (3) 資源のリサイクル
 - ①リサイクル率の向上【下水道】 主要

政策4 お客様サービスを向上させる。

- (1) 安全でおいしい水の安定的な供給
 - ①水道管の整備・充実【水道】 主要
 - ②水道施設の整備・充実【水道】 主要
 - ③直結給水サービスの拡大【水道】 主要
 - ④水質管理・監視の充実【水道】 主要
 - ⑤鉛製給水管の更新【水道】 主要
- (3) 接客・窓口サービスなどの充実
 - ①料金支払いの利便性の向上【共通】 挑戦 主要
 - ②サービス体制の再構築【共通】 主要 改定
 - ③地域貢献【共通】
- (4) 市民参画の推進
 - ①静岡市上下水道事業経営協議会の開催【共通】 連携 主要
 - ②協働事業の検討・実施【共通】
 - ③積極的な広報活動【共通】 挑戦 主要 改定
 - ④広聴機能の充実【共通】

※「(2)簡易水道事業などとの統合」は、第3次中期経営計画期間内で事業が完了したため、掲載を省略しています。

政策5 信頼される経営を確立する。

- (1) 業務の効率化
 - ①機能的な組織づくり【共通】
 - ②上下水道の資産・資源の有効活用【共通】 主要
 - ③マッピングシステムの運用拡大【水道】
- (2) 職員の技術習得
 - ①各種研修の充実【共通】 主要 改定
 - ②技術継承の仕組みづくり【共通】 主要
- (3) 財政の健全化
 - ①新たな収入の確保【共通】 改定
 - ②企業債残高の適正な管理【共通】 挑戦 連携 主要
 - ③財政計画の定期的な見直し【共通】
 - ④適正な債権管理【共通】
 - ⑤収納率の向上【共通】 主要
- (4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開
 - ①国際協力に係る情報収集と実施などの検討【共通】 改定
 - ②広域連携の実施・検討【共通】 連携 主要 改定

【第2章】

第4次静岡市中期経営計画の 施策及び事務事業評価

令和3年度

1 第4次中期経営計画の施策の目的及び事務事業の実施目標

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|---|-----|--|---------------------------|--|
| 政策1 危機管理を強化する。 | | | | |
| 施策(1) 重要な管・ 施設の地震 対策 | | この施策は、「水道管の耐震化」、「下水道管の耐震化」、「水道施設の耐震化」及び「下水道施設の津波対策」の4つの事務事業により、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指すものである。 | ①水道管の耐震化 【水道】 | 「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、基幹管路(重要な水道管) 307.4kmのうち、耐震化済の水道管延長が、平成30年度末は116.4kmですが、これを令和4年度末までに9.0km実施し、新規布設分9.0kmと併せて134.4kmの耐震化を完了します。 |
| | | | ②下水道管の耐震化 【下水道】 | 「静岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、耐震性能の確認、各種対策の実施により耐震化した下水道管延長は、重要な下水道管474.2kmのうち、平成30年度末で247.9kmですが、これを令和4年度末までに29.3km延伸させ、277.2kmの耐震化を完了します。 |
| | | | ③水道施設の耐震化 【水道】 | 配水池耐震診断の結果を参考に、「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、配水池等有効容量198,634m ³ のうち優先度の高い未補強施設の工事及び水運用の変更により、令和4年度末までに13,500m ³ の耐震化を実施します。 |
| | | | ④下水道施設の津波対策 【下水道】 | 「静岡市下水道施設津波対策計画」及び「静岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、重要な管・施設の地震対策を実施します。 (管路) 耐津波対策が必要な既設の下水道管路吐口全31箇所のうち、令和4年度末までに1箇所のゲート設置工事を実施します。 (施設) 耐津波対策が必要な5浄化センター、12ポンプ場及び14吐口を始め、各施設の耐震・耐津波対策実施計画を令和4年度末までに策定します。 |
| 施策(2) 浸水対策 | | この施策は、「雨水総合排水計画の更新」、「雨水ハザードマップの作成・公表」及び「雨水幹線・ポンプ場などの整備」の3つの事務事業により、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指すものである。 | ①雨水総合排水計画の更新 【下水道】 | 雨水計画のマスタープランとなる雨水総合排水計画は、前回の見直し(H11~15)から10年以上が経過しており、旧市町の計画諸元の統一性を図るとともに、近年の大雨にも対応した総合的な浸水対策を実施するため、新たな「雨水総合排水計画」に更新します。 |
| | | | ②内水ハザードマップの作成・公表 【下水道】 | 「静岡市浸水対策推進プラン」に位置づけた内水ハザードマップ作成予定地区において、全8地区のうち、平成30年度末までには7地区で作成・公表済であり、令和元年度に残り1地区作成し、全地区完了することから、説明会などを通じ、市民にハザードマップの活用方法などの理解を深めます。 |
| | | | ③雨水幹線・ポンプ場などの整備 【下水道】 | 「静岡市浸水対策推進プラン」に位置づけた浸水対策地区において、下水道部が所管する26地区のうち、対策完了地区が平成30年度末で11地区完了しました。これを令和4年度末までに新たに5地区完了し、16地区の浸水対策を完了します。 |

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|---------------------------|---------------------------------|---|---|--|
| | 施策（3） 渇水対策 | この施策は、「水の相互運用」の事務事業により、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指すものである。 | ①水の相互運用 【水道】 | 平成30年度末に水道管布設工事が完了となる北部ルート21.1kmの通水作業、柏尾配水池の供用開始を行い、異常渇水時には安倍川水系と興津川水系の水を相互運用できる体制を確立します。 |
| | 施策（4） 災害時などの対応や体制の確立 | この施策は、「事業継続計画（BCP）の充実・定着」及び「災害時活動拠点の整備」の2つの事務事業により、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指すものである。 | ①事業継続計画（BCP）の充実・定着 【共通】 | 事業継続に必要な計画・マニュアルを整備し、職員や関係団体への研修・訓練により、一層の定着を図ります。 |
| | ②災害時活動拠点の整備 【水道】 | | 災害時に給水を可能な限り確保するため、市民に水を配る給水拠点の整備を進めます。 | |
| 政策2 管・施設を効率的に運用する。 | | | | |
| | 施策（1） 管・施設の老朽化対策 | この施策は、「中長期計画の更新」、「水道管の更新」、「下水道管の改築」、「水道施設の更新」、「下水道施設の改築」、「水道管の漏水対策」及び「下水道管の不明水対策」の7つの事務事業により、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。 | ①中長期計画の更新 【共通】 | アセットマネジメント手法の導入効果の検証、施設の劣化予測の実態の検証、蓄積されたデータ等を活用し、中長期計画（水道：静岡市水道施設中長期更新計画、下水道：静岡市公共下水道再構築基本計画）の見直しを行います。 |
| | | | ②水道管の更新 【水道】 | 「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、配水支管2,286kmのうち令和4年度末までに70.3kmを更新します。 |
| | | | ③下水道管の改築 【下水道】 | 「静岡市公共下水道再構築基本計画」に基づき、再構築を必要とする布設後50年以上の下水道管のうち、17.6kmを改築し、管路の健全度を維持します。 |
| | | | ④水道施設の更新 【水道】 | 「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、水道施設において老朽化した機械・電気設備について、令和元年度から令和12年度末までに更新が見込まれる101箇所のうち27箇所を令和4年度末までに更新します。（箇所数は、工事数を示しています。） |
| | | | ⑤下水道施設の改築 【下水道】 | 「静岡市公共下水道再構築基本計画」に沿って策定した「静岡市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、令和元年度から令和12年度末までに改築が見込まれる老朽化した施設160箇所のうち35箇所を令和4年度末までに改築します。（箇所数は、工事数を示しています。） |
| | | | ⑥水道管の漏水対策 【水道】 | 漏水調査実施計画に基づき、給水区域を20地区に分け、各地区の管の老朽度と漏水発生の頻度から、調査周期を1～3年と定め水道管の漏水調査を行うなど、積極的に漏水対策を行います。 |
| | | | ⑦下水道管の不明水対策 【下水道】 | 不明水による浄化センター等への負荷低減を図るため、不明水の要因を特定するための調査・分析を行い、7処理区全9地区のうち令和4年度末までに3地区の対策案を策定します。 |

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|------------------|----------------|---|---------------------------------|---|
| | 施策(2)施設の効率化 | この施策は、「施設の小規模化・統廃合」及び「水運用計画の策定」の2つの事務事業により、水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。 | ①施設の小規模化・統廃合 【水道】 | 水道施設の更新や改築に合わせて小規模化や統廃合を進めます。 |
| | | | ②水運用計画の策定 【水道】 | 市域全体の水運用計画の検討を行い、水道施設の状況や水需要予測を十分に踏まえた水運用計画を策定し、事業を推進します。 |
| 政策3 環境への負荷を軽減する。 | | | | |
| | 施策(1)水環境の保護・改善 | この施策は、「水源涵養林の維持管理」、「下水道計画区域内の整備」、「水洗化戸数の増加」及び「浄化センターからの放流水質の安定的な維持」の4つの事務事業により、上下水道に係る水環境を守るとともに改善を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。 | ①水源涵養林（すいげんかんようりん）の維持管理 【水道】 | 静岡市の水道事業で所有している2地区(5区域)32.2haの水源涵養林の保護・育成を継続的にを行い、適切に管理します。 |
| | | | ②下水道計画区域内の整備 【下水道】 | 事業計画（認可）面積 9,710.3ha のうち、平成 30 年度末で 8,935ha が整備済となりました。これを令和 4 年度末までに新たに 120ha を整備し、9,055ha とします。 |
| | | | ③水洗化戸数の増加 【下水道】 | 公共下水道の未接続世帯に対する臨戸訪問や文書勧告などの下水道接続推進活動により、水洗化戸数の増加を図ります。 |
| | | | ④浄化センターからの放流水質の安定的な維持 【下水道】 | 流入水に対し適正な対応をすることで、放流水の目標水質（日平均 BOD 8 mg/L 以下・SS20mg/L 以下）を安定的に維持します。また、放流水質を悪化させる原因となる流入水のデータベース化を行います。 |
| | 施策(2)温暖化対策 | この施策は、「自然エネルギーの活用」及び「省エネルギー対策」の2つの事務事業により、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。 | ①自然エネルギーの活用 【水道】 | 小水力発電設備を設置します。また、自然エネルギーの導入可能性について継続して検討していきます。 |
| | | | ②省エネルギー対策 【共通】 | 水道施設や下水道施設における設備の効率的な運転や高効率機器への更新、執務室における昼休みの消灯やクールビズ・ウォームビズの実施など、エネルギー使用量の削減に取り組むことで省エネルギーを推進します。 |
| | 施策(3)資源のリサイクル | この施策は、「リサイクル率の向上」の事務事業により、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、炭化炉の整備により燃料化を進め、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指すものである。 | ①リサイクル率の向上 【下水道】 | 清水地区の汚泥集約化を完了させ、下水汚泥の有効利用先の調査及び検討を実施し、令和2年度末までに下水汚泥リサイクル率を 100%に引き上げます。 |

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|----------------------------------|-----|--|-----------------------|---|
| 政策4 お客さまサービスを向上させる。 | | | | |
| 施策(1) 安全でおいしい水の安定的な供給 | | この施策は、「水道管の整備・充実」、「水道施設の整備・充実」、「直結給水サービスの拡大」、「水質管理・監視の充実」及び「鉛製給水管の更新」の5つの事務事業により、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指すものである。 | ①水道管の整備・充実 【水道】 | 給水区域内において、需要に応じた水道管 12.8 kmの整備を順次進めていきます。 |
| | | | ②水道施設の整備・充実 【水道】 | 給水区域内における未整備地区など需要に応じた整備を順次進めていきます。 |
| | | | ③直結給水サービスの拡大 【水道】 | 水道施設の整備などに合わせて、直結給水が実施可能な地域や対象施設の拡大を図ります。また、増圧給水の承認により、高層階(10階程度)の直結給水を可能にします。 |
| | | | ④水質管理・監視の充実 【水道】 | 水安全計画、水質検査計画の運用や検証、水道GLPなどによる水質管理・監視体制の充実を図るとともに、水質検査機器や水質監視装置の定期的な保守点検と計画的な更新(32台中16台)を行います。 |
| | | | ⑤鉛製給水管の更新 【水道】 | 令和11年度までに鉛製給水管をポリエチレン製等の給水管に更新する計画(静岡市鉛製給水管(なまりせいきゅうすいかん)更新計画)を平成21年度に作成しました。鉛製給水管は平成21年度末で64,596箇所ありましたが、平成22年度から平成30年度までに26,705箇所の更新を行い平成30年度末で37,891箇所まで減少しています。計画に基づき、令和元年度から令和4年度にかけて15,100箇所の更新を行います。 |
| 施策(3) 接客・窓口サービスなどの充実 | | この施策は、「料金支払いの利便性の向上」、「サービス体制の再構築」及び「地域貢献」の3つの事務事業により、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指すものである。 | ①料金支払いの利便性の向上 【共通】 | お客さまのライフスタイルに合ったクレジットカード決済等の納付方法や請求方法などについて、要望やニーズを総合的に検証し、導入可能なものについて実施していきます。 |
| | | | ②サービス体制の再構築 【共通】 | コロナ禍において大きく変化するお客さまニーズに応えるため、包括業務委託(未納料金収納等業務、お客様サービスセンター業務、給水装置・量水器関係業務)の業務仕様の見直し及び更なる委託範囲の拡大を検討、ICT技術等を活用し、多機能化した次世代型サービスの導入検討を進め、令和5年度以降の稼働を目指します。 |
| | | | ③地域貢献 【共通】 | 地域活動に積極的に参加するとともに、検針時に合わせ高齢者等の見守り支援を、市関係部署と連携し実施します。 |

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|--------------------------|-------------------------------|---|----------------------------|---|
| | 施策（４） 市民参画の 推進 | この施策は、「静岡市上下水道事業経営協議会の開催」、「協働事業の検討・実施」、「積極的な広報活動」及び「広聴機能の充実」の4つの事務事業により、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえるよう、わかりやすい内容による積極的な広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すものである。 | ①静岡市上下水道事業経営協議会の開催 【共通】 | 市民意見を広く聴くとともに、事業評価を適切に実施するため、「静岡市上下水道事業経営協議会」を開催します。 |
| | | | ②協働事業の検討・実施 【共通】 | 上下水道局が行うイベントへの市民ブースの出展や、広報活動に市民の皆さんのアイデアを取入れます。 |
| | | | ③積極的な広報活動 【共通】 | SNS、ホームページ、局庁舎内に設置する展示コーナーなどで、積極的に事業PRを行うとともに、イメージキャラクター、ロゴマーク等を活用するなど、親しみやすい広報活動を推進します。 |
| | | | ④広聴機能の充実 【共通】 | ホームページ等を活用したアンケート調査や、出前講座、施設見学、上下水道モニター等での意見聴取の結果を整理し対応する仕組みを整備します。また、経営計画策定の参考とするため、市民ニーズの把握などに努め、市民との双方向コミュニケーションを図ります。 |
| 政策5 信頼される経営を確立する。 | | | | |
| | 施策（１） 業務の効率化 | この施策は、「機能的な組織づくり」、「上下水道の資産・資源の有効活用」及び「マッピングシステムの運用拡大」の3つの事務事業により、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。 | ①機能的な組織づくり 【共通】 | 水道事業及び下水道事業内の業務・組織の統廃合を検討・実施し、必要な部署への適正な人員配置を進めます。 |
| | | | ②上下水道の資産・資源の有効活用 【共通】 | 水道事業、下水道事業は今まで別々に事業実施してきましたが、経営資源である「ヒト=人材」を上下水道局という一つの組織として捉え、流動的かつ有効的に活用できる方策を検討し実施します。 |
| | | | ③マッピングシステムの運用拡大 【水道】 | 水道管の口径や布設年度などの情報を管理するマッピングシステムにおいて、簡易水道統合、水道法改正を見据えた水道施設や事故、修繕履歴等の情報を管理することで、マッピングシステムの運用拡大による情報の効率的な管理と利用を行い、将来計画の充実を図ります。 |
| | 施策（２） 職員の技術 習得 | この施策は、「各種研修の充実」及び「技術継承の仕組みづくり」の2つの事務事業により、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指すものである。 | ①各種研修の充実 【共通】 | 事業運営に必要な知識・技術を確保するため、経験年数等に応じた階層別研修や、資格取得のための研修、外部機関が実施する専門研修などに職員を派遣します。 また、研修成果の発表の場を設け、他の職員へ知識・技術を広く伝えるとともに、研修カリキュラムや検証を行う体制を構築します。 |
| | | | ②技術継承の仕組みづくり 【共通】 | 事業運営に必要な技術や知識を確保するため、継承すべき技術の選定や継承するための仕組みを検討します。 |

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価

| 政策 | 施策名 | 施策目的 | 事務事業名 | 実施目標 |
|----|-----------------------------|--|------------------------------|--|
| | 施策（3） 財政の健全化 | この施策は、「新たな収入の確保」、「企業債残高の適正な管理」、「財政計画の定期的な見直し」、「適正な債権管理」及び「収納率の向上」の5つの事務事業により、未収金を減らし料金・使用料の増収を図り、新たな財源の確保と企業債残高の適正管理に努めるとともに、経常的な費用の最小化を行うことで、信頼される経営の確立を目指すものである。 | ①新たな収入の確保 【共通】 | 財源の確保のため、新規収入を検討・導入し、料金・使用料以外の収益を増やします。 |
| | | | ②企業債残高の適正な管理 【共通】 | 将来の支払利息が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理します。 |
| | | | ③財政計画の定期的な見直し 【共通】 | 計画に基づいた事業を着実に実施し、また、将来の状況変化を見据えた次期計画を策定することで安定的な経営を目指します。 |
| | | | ④適正な債権管理 【共通】 | 早期催告、給水停止を強化し、効果的な滞納整理に努めるとともに、法的措置も含め、不良債権の整理等を検討し、実施することで未収金を削減します。 |
| | | | ⑤収納率の向上 【共通】 | 委託業務の推進により、民間業者が有する専門性、ノウハウを最大限に活用して、未収金を抑制し、また早期納付を推進していくことで収納率の向上に努めます。 |
| | 施策（4） 新たな視点に立った上下水道事業の展開 | この施策は、「国際協力に係る情報収集と実施などの検討」及び「広域化の実施・検討」の2つの事務事業により、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指すものである。 | ①国際協力に係る情報収集と実施などの検討 【共通】 | 健全経営や確実な事業の執行を前提とする中で、職員が事業を継続しながら対応可能な国際協力である海外研修員の受入れについて情報収集を進め、実施を検討します。 |
| | | | ②広域連携の実施・検討 【共通】 | 地域の中核的な都市の役割を果たすため、近隣事業体との広域連携を実施・検討します。 |

2 評価方法

● 自己評価（1次評価）

自己評価（1次評価）とは、第4次中期経営計画に掲げた事務事業及び施策について、それぞれの目標に対する達成度を、上下水道局の行政評価決定機関である内部評価委員会において、自己評価したものである。

今年度の自己評価では、第4次中期経営計画に掲げた上下水道局が実施する全ての事務事業である50項目について、次に示す3 評価基準 ①「評価基準(事務事業)」に基づく5段階の評価を実施した。

また、事務事業の上位区分となる16の施策については、それぞれの施策ごとに、次に示す3 評価基準 ②「評価基準(施策)」に基づく4段階評価を用いて、総合的・体系的な評価結果をまとめた。

● 外部評価（2次評価）

外部評価（2次評価）とは、内部評価委員会の実施した自己評価結果を、協議会が専門的かつ客観的な第三者の視点から評価するもので、事業の充実や継続、見直しの根拠として活用するとともに、評価の透明性の確保と市民への説明責任を果たしていこうとするものである。

第4次中期経営計画の外部評価は、自己評価を実施した全ての事務事業のうちから、令和4年度第1回の協議会で決定した外部評価対象とした19の主要事業と、9の施策全てについて、次に示す3 評価基準 ①「評価基準(事務事業)」及び ②「評価基準(施策)」に基づき、客観的に評価を実施した。

なお、■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】には、各委員から出された意見の要点をまとめ、これを外部評価として協議会の審議を経たものと、その他の意見として外部評価意見に反映されなかった意見の要点をまとめたものを掲載している。

● 改善に向けた取組

目標を達成できなかった事務事業について、市当局が評価をとおして検討した改善に向けた取組を記載した。

● 次期計画に向けて

次期の計画につなげるため、内部評価委員会において第4次中期経営計画期間（令和元年度から令和3年度まで）における各施策の「実施した点」、「課題点」の視点から振り返りを実施した。

これを受けて、協議会から「評価できる点」、「改善すべき点」について、専門的かつ客観的な視点から振り返り、要点をまとめた。

● 今後の方向性

「自己評価（1次評価）」、「外部評価（2次評価）」及び「次期計画に向けて」を踏まえ、上下水道局が示す各施策の今後の方向性であり、上下水道事業経営戦略の改定及び次期中期経営計画の策定につなげるものである。

3 評価基準

① [評価基準（事務事業）]

第4次中期経営計画に掲げる事務事業について、設定した成果指標の目標値と実績値を比較した達成度に、活動指標の実績を勘案して、アルファベット小文字の「s」から「c」までの4段階で評価した。政策変更等で実施しなかった事業は「—」を記入した。

| 評価区分 | 数値目標があるもの | 数値目標がないもの |
|------|------------------------|---|
| S | 目標を上回る (105%以上) | ・目標以上の成果があがっている。 |
| a | 目標どおり (90%以上105%未満) | ・目的達成に向けて、計画どおり成果が出ている。 ・実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。 |
| b | 目標を下回る (70%以上90%未満) | ・目的達成に向けて、ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている。 ・実績や事業費に比較して成果がやや低い。 |
| c | 目標を顕著に下回る (70%未満) | ・目的達成に向けて、成果が出ていない。 ・事業実施の効果が認められない。 ・今後も成果が見込めず、事業そのものの見直しが必要。 |
| — | 実施せず | ・実施する必要が無くなった。 ・政策変更等により、実施が不可能となった。 |

② [評価基準（施策）]

第4次中期経営計画に掲げる16の施策ごとに、構成する「主要事業」と「その他の事業」の評価年度までの達成状況を勘案し、アルファベット大文字の「S」から「C」までの4段階で総合的・体系的に評価した。

| 評価区分 | 内容 | 評価の視点 |
|------|-------------------|--|
| S | 施策の目的が十分に達成されている | ・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的が十分に達成された状態にある。 ・施策推進による顕著な成果が見られる。 |
| A | 施策の目的が達成されている | ・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的がおおむね達成された状態にある。 ・実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。 |
| B | 施策の目的があまり達成されていない | ・第4次中期経営計画策定時の施策目的が達成されているとはいえない状態にある。 ・実績や事業費に比較して成果がやや低い |
| C | 施策の目的が達成されていない | ・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的がまったく達成されていない。 ・実績や事業費に見合った成果が出ていない。 |

4 評価結果のまとめ

● 第4次静岡市中期経営計画（令和元年度～令和4年度）に掲げた基本計画（施策）評価一覧表

| 政策 | 施策名 | 主要事業 | 事務事業名 | 元年度 | | 2年度 | | 3年度 | | 4年度 | | | | | | | | |
|-------------------------|-----|------------------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|--|--|
| | | | | 施策 | | 事務事業 | | 施策 | | 事務事業 | | 施策 | | 事務事業 | | | | |
| | | | | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | | | |
| 1 危機管理を強化する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 重要な管・施設の地震対策 | 主 | ① 水道管の耐震化 | A | A | a | a | B | B | b | b | A | A | a | a | | | | |
| | 主 | ② 下水道管の耐震化 | | | a | a | | | a | a | | | a | a | | | | |
| | 主 | ③ 水道施設の耐震化 | | | a | a | | | a | a | | | a | a | | | | |
| | | ④ 下水道施設の津波対策 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| (2) 浸水対策 | | ① 雨水総合排水計画の更新 | | | c | c | | | a | / | | | a | / | | | | |
| | | ② 内水ハザードマップの作成・公表 | B | B | s | / | A | A | s | / | A | A | s | / | | | | |
| | 主 | ③ 雨水幹線・ポンプ場などの整備 | | | b | b | | | a | a | | | b | b | | | | |
| (3) 渇水対策 | 主 | ① 水の相互運用 | A | / | a | / | A | / | a | / | A | / | a | / | | | | |
| (4) 災害時などの対応や体制の確立 | | ① 事業継続計画（BCP）の充実・定着 | A | / | a | / | A | A | a | / | A | / | a | / | | | | |
| | 主 | ② 災害時活動拠点の整備 | | | a | / | | | a | a | | | a | / | | | | |
| 2 管・施設を効率的に運用する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 管・施設の老朽化対策 | | ① 中長期計画の更新 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| | 主 | ② 水道管の更新 | | | a | a | | | b | b | | | b | b | | | | |
| | 主 | ③ 下水道管の改築 | | | a | a | | | a | a | | | a | a | | | | |
| | 主 | ④ 水道施設の更新 | A | A | a | a | B | B | a | a | B | B | a | a | | | | |
| | 主 | ⑤ 下水道施設の改築 | | | s | s | | | s | s | | | a | a | | | | |
| | 主 | ⑥ 水道管の漏水対策 | | | a | a | | | a | a | | | s | s | | | | |
| | | ⑦ 下水道管の不明水対策 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| (2) 施設の効率化 | 主 | ① 施設の小規模化・統廃合 | A | / | s | / | A | A | a | a | A | / | a | / | | | | |
| | | ② 水運用計画の策定 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| 3 環境への負荷を軽減する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 水環境の保護・改善 | | ① 水源涵養林の維持管理 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| | 主 | ② 下水道計画区域内の整備 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| | 主 | ③ 水洗化戸数の増加 | A | / | a | / | A | / | a | / | A | / | a | / | | | | |
| | | ④ 浄化センターからの放流水質の安定的な維持 | | | a | / | | | a | / | | | a | / | | | | |
| (2) 温暖化対策 | 主 | ① 自然エネルギーの活用 | B | B | b | b | B | B | b | b | C | C | b | b | | | | |
| | 主 | ② 省エネルギー対策 | | | a | a | | | b | b | | | c | c | | | | |
| (3) 資源のリサイクル | 主 | ① リサイクル率の向上 | A | / | a | / | A | / | a | / | A | / | a | / | | | | |

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価

| 政策 | 施策名 | 主要事業 | 事務事業名 | 元年度 | | 2年度 | | 3年度 | | 4年度 | | | | | |
|---------------------------|-----|-----------------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 施策 | | 事務事業 | | 施策 | | 事務事業 | | 施策 | | 事務事業 | |
| | | | | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 | 自己評価 | 外部評価 |
| 4 お客さまサービスを向上させる。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安全でおいしい (1)水の安定的な供給 | 主 | ① 水道管の整備・充実 | A | a | A | a | A | A | b | b | | | | | |
| | 主 | ② 水道施設の整備・充実 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | 主 | ③ 直結給水サービスの拡大 | | a | | s | | a | a | | | | | | |
| | 主 | ④ 水質管理・監視の充実 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | 主 | ⑤ 鉛製給水管の更新 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| (3)接客・窓口サービスなどの充実 | 主 | ① 料金支払いの利便性の向上 | A | a | B | B | a | B | B | a | | | | | |
| | 主 | ② サービス体制の再構築 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | | ③ 地域貢献 | | a | | c | c | c | c | | | | | | |
| (4)市民参画の推進 | 主 | ① 静岡市上下水道事業経営協議会の開催 | A | a | A | a | B | B | a | | | | | | |
| | | ② 協働事業の検討・実施 | | a | | a | | c | c | | | | | | |
| | 主 | ③ 積極的な広報活動 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | | ④ 広聴機能の充実 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| 5 信頼される経営を確立する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)業務の効率化 | 主 | ① 機能的な組織づくり | A | a | A | a | A | a | | | | | | | |
| | | ② 上下水道の資産・資源の有効活用 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | | ③ マッピングシステムの運用拡大 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| (2)職員の技術習得 | 主 | ① 各種研修の充実 | A | a | B | B | b | B | B | b | | | | | |
| | 主 | ② 技術継承の仕組みづくり | A | a | | a | | a | a | | | | | | |
| (3)財政の健全化 | | ① 新たな収入の確保 | A | a | A | a | B | B | c | c | | | | | |
| | 主 | ② 企業債残高の適正な管理 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | | ③ 財政計画の定期的な見直し | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| | | ④ 適正な債権管理 | | s | | a | | a | a | | | | | | |
| | 主 | ⑤ 収納率の向上 | | a | | a | | a | a | | | | | | |
| 新たな視点に (4)立った上下水道事業の展開 | | ① 国際協力に係る情報収集と実施などの検討 | A | a | A | a | A | a | | | | | | | |
| | 主 | ② 広域連携の検討 | | a | | a | | a | a | | | | | | |

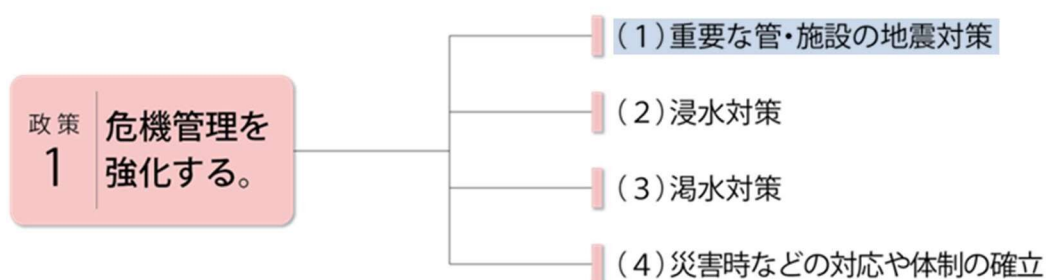
《外部評価対象》

| 施策数 | 事務事業数 | |
|-----|-------|-------------------|
| 4 | 11 | 戦略的に重要なもの |
| 0 | 1 | 新たな取組等実施したもの |
| 4 | 5 | 自己評価が「A (a)」未満のもの |
| 1 | 2 | 評価対象としたいもの |

5 各施策の評価結果

| | | |
|-----|--|---------------------|
| 施策名 | 1 - (1) | 重要な管・施設の地震対策 |
| 目的 | この施策は、「水道管の耐震化」、「下水道管の耐震化」、「水道施設の耐震化」及び「下水道施設の津波対策」の4つの事務事業により、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指すものである。 | |

政策 -----> 施策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------|--|---|
| ◎ | ①水道管の耐震化 【水道】 | <p>【a評価】 活動指標は、令和3年度計画「2.0km」に対し、令和2年度工事線越完成分「0.7km」を加えた「3.0km」の実施となり、活動指標は達成した。 具体的な取組として日本平送水管布設替工事や福田ヶ谷送水管布設替工事など8件の工事を実施した。 また、成果指標の「基幹管路の耐震管率」は令和3年度計画の「41.2%」に対し、「40.8%」の実績で達成率は99.0%となったため、「a」評価とした。</p> | <p>【a評価】 水道管の耐震化については、計画どおりに進捗している。 耐震化事業は災害時の市民生活に直結する事業であるため、油断なく目標に対して着実に取り組むように努めること。</p> |
| ◎ | ②下水道管の耐震化 【下水道】 | <p>【a評価】 下水道管の耐震化について、重要な下水道管の耐震化を令和3年度計画「6.3km」に対し、「28.0km」の実績となった。 具体的な取組として、下水道管の耐震化調査・設計及び工事を実施した。 また、重要な下水道管の耐震管率は令和3年度計画「56.4%」に対し、「61.6%」の実績で109.2%となったが、耐震診断した結果、耐震対策が不要となった管が想定を上回り、耐震対策不要延長が20.5kmとなったため、評価は「a」とした。</p> | <p>【a評価】 下水道管の耐震化について、計画どおりに進捗している。 災害時に下水道施設が使えなければ、上水道は通常のように使用できないため、今後も計画どおりに着実に進めるよう努めること。 なお、耐震対策不要延長に関わらず、単純な実績値で評価しても良いとして、「s」とする評価もあった。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|----------------------|--|---|
| ◎ | ③水道施設の耐震化 【水道】 | <p>【a評価】 水道施設の耐震化について、令和3年度計画どおり「4,000 m³」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、草薙配水池の貯水量を、4,700 m³から4,000 m³に減らす操作により、耐震性の確保と、令和4年度から5年度に予定している、向敷地配水場配水池更新工事の詳細設計業務委託を行った。</p> <p>また、配水池の耐震化率は、令和3年度計画のとおり「44.3%」となり、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | <p>【a評価】 水道施設の耐震化について、計画どおりに進捗している。</p> <p>災害時の水供給に大きな影響を及ぼすことから、今後も計画どおりに着実に進めるよう努めること。</p> |
| | ④下水道施設の津波対策 【下水道】 | <p>【a評価】 下水道施設の津波対策について、管路吐口ゲート設置工事（以下『管路吐口』とする）を令和3年度計画「管路吐口耐津波詳細設計」及び「遠方監視制御システム設置工事」に対し、「詳細設計」及び「遠方監視制御システム設置工事」を実施した。次に、施設の耐震・耐津波対策基本設計、実施計画策定（以下『施設耐震・耐津波』とする）を令和3年度計画「基本設計」に対し、「基本設計」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、広野にある雨水幹線吐口に遠方監視制御システムの設置工事を完了したが、『管路吐口』の横砂にある管路吐口3箇所の詳細設計は、年度当初に発注した入札不調により計画に遅れが生じており、令和4年度に業務を完了する予定である。なお、この詳細設計の業務完了の遅延により、令和4年度のゲート設置工事1箇所の完了が令和5年度に順延となる。一方、『施設耐震・耐津波』では、対策を必要とする築地ポンプ場及び折戸ポンプ場の耐震・耐津波対策基本設計業務委託を実施した。</p> <p>また、施設の耐震・耐津波対策基本設計、実施計画実施率は、令和3年度計画どおり「85.7%」の実績で、達成率は100%となったため「a」評価とした。</p> <p>※（管路吐口）ゲート設置工事实施率は令和3年度計画値の設定がないため、評価対象としていない。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|----|-----------|------|---------------|-------|----------------------|---------|--------------------------|--------------|--|
| ◎ | ①水道管の耐震化 | 活動指標 | 水道管(基幹管路)の耐震化 | 計画値 | 1.3km | 2.5km | 2.0km | 3.2km | |
| | | | | 実績値 | 1.3km | 1.8km | 3.0km | | |
| | | 成果指標 | 基幹管路の耐震管率 | 計画値 | 39.5% | 40.5% | 41.2% | 42.2% | |
| | | | | 実績値 | 39.3% | 40.1% | 40.8% | | |
| | | 達成率 | | | | 99.5% | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | 99.0% | |
| | | 自己評価 | | | | a | b | a | |
| | | 外部評価 | | | | a | b | a | |
| ◎ | ②下水道管の耐震化 | 活動指標 | 重要な下水道管の耐震化 | 計画値 | 6.0km | 7.1km | 6.3km | 9.9km | |
| | | | | 実績値 | 6.0km | 10.4km | 28.0km | | |
| | | 成果指標 | 重要な下水道管の耐震管率 | 計画値 | 53.5% | 55.0% | 56.4% | 63.7% | |
| | | | | 実績値 | 53.5% | 55.7% | 61.6% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 101.3% | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | a | a | a | |
| ◎ | ③水道施設の耐震化 | 活動指標 | 水道施設の耐震化 | 計画値 | 9,500 m ³ | (計画見直し) | 4,000 m ³ | (工事着手) | |
| | | | | 実績値 | 9,500 m ³ | (計画見直し) | 4,000 m ³ | | |
| | | 成果指標 | 配水池の耐震化 | 計画値 | 41.0% | 42.1% | 44.3% | 44.3% | |
| | | | | 実績値 | 41.0% | 42.1% | 44.3% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 100% | 100% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | a | a | a | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|-------------|-------|------|-------------------------|-------|-------------|----------------|-------------------------------|-----------------------|--|
| ④下水道施設の津波対策 | | 活動指標 | (管路吐口)ゲート設置工事 | 計画値 | — | 管路吐口耐津波診断・基本設計 | 管路吐口耐津波詳細設計 遠方監視制御システム設置工事 | 1箇所 | |
| | | | | 実績値 | — | 管路吐口耐津波診断 | 遠方監視制御システム設置工事 | | |
| | | | (施設)耐震・耐津波対策基本設計、実施計画策定 | 計画値 | 基本設計実施(2箇所) | 基本設計実施(2箇所) | 基本設計実施(2箇所) | 基本設計実施(1箇所) 実施計画策定 | |
| | | | | 実績値 | 基本設計実施(2箇所) | 基本設計実施(2箇所) | 基本設計実施(2箇所) | | |
| | | 成果指標 | (管路吐口)ゲート設置工事実施率 | 計画値 | — | — | — | 3.2% | |
| | | | | 実績値 | — | — | — | | |
| | | | (施設)耐震・耐津波対策実施計画実施率 | 計画値 | 28.6% | 57.1% | 85.7% | 100% | |
| | | | | 実績値 | 28.6% | 57.1% | 85.7% | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | A | <p>重要な管・施設の地震対策について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、1つの事務事業がR2の遅れを取り戻し計画どおりの実施となり、3つの事務事業は引き続き計画どおりの実施となったことから、成果が出ている。</p> <p>遅れを取り戻した「①水道管の耐震化」の事務事業は、前年度「b」評価であったが、令和2年度工事繰越分については令和3年度に完了した。また、令和3年度も計画どおりに達成し、令和3年度は「a」評価となった。</p> <p>以上のことから、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度の施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|---|

| | | |
|------|---|--|
| 外部評価 | A | <p>重要な管・施設の地震対策について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、1つの事務事業が令和2年度の遅れを取り戻し計画どおりの成果となり、3つの事務事業は計画どおりの成果となった。</p> <p>以上のことから、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めるという施策の目的について、おおむね達成されているため、令和3年度の施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|--|

■次期計画に向けて (上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1~3) | <p>管や施設の地震対策及び津波対策を計画どおりに進めることができた。</p> <p>水道事業では、令和2年度に一部遅れが生じたものの、遅れを取り戻し計画どおりに事業を実施した。</p> <p>下水道事業では管の地震対策及び管・施設の津波対策もおおむね計画どおりに実施した。</p> |
| 課題点 | <p>現状ではおおむね予定した耐震化事業を実施できているが、社会情勢の急激な変化に伴い、資材費や労務単価が想定以上に上昇している。これまでの事業規模を維持した場合、投資額の増加が懸念されることから、財源の状況を踏まえて実施事業を再検討する必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

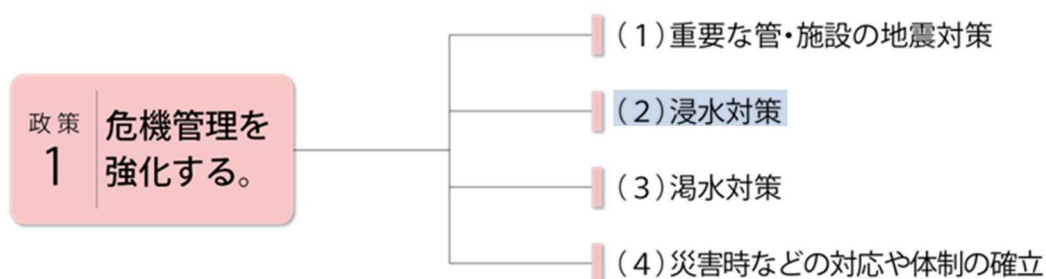
| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・「水道管の耐震化」について令和2年度の遅れを取り戻して計画通りに実施でき、令和3年度も引き続き計画通りの実施となったことは評価に値すると思います。何か突発的なマイナス面が出てきたとしても、何としても4年間の中でカバーしていこうという心構えは大事です。 ・設定した目標まで確実に進捗している点が評価できます。 ・「①水道管の耐震化」において、令和2年度の遅れを令和3年度に取り戻し、令和3年度の事務事業が全て「a」評価であることを評価します。 ・①水道管の耐震化についてR2年度のb評価をa評価に回復できた努力が評価できます。 ・遅れを取り戻した点が評価できます。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・工事が遅延しないためにも、研修会などを通じて今後技術者のスキルアップと技術者を増やすことが望みます。 |

■今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | <p>重要な管・施設の地震対策については、想定される巨大地震に備え、適正な進行管理を行い、引き続き計画的に事業を推進していく。</p> <p>また、必要な財源や担い手の確保に努めるとともに、社会情勢の急激な変化に伴う資材費や労務単価の動向を注視し、必要に応じて計画の変更等を検討していく。</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 1-(2) 浸水対策 |
| 目的 | この施策は、「雨水総合排水計画の更新」、「内水ハザードマップの作成・公表」及び「雨水幹線・ポンプ場などの整備」の3つの事務事業により、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|---------------------------|---|--------------------|
| | ①雨水総合排水計画の更新 【下水道】 | <p>【a 評価】 雨水総合排水計画の更新について、令和3年度計画どおり「基本計画（中期計画地区）」を作成した。 具体的には、令和2年12月に公表した「基本構想」に基づき、浸水対策推進プラン完了後の早期に浸水対策を行う必要のある「中期計画地区」の対策を立案した。 また、基本計画策定進捗率は、令和3年度計画どおり「62%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |
| | ②内水ハザードマップの作成・公表 【下水道】 | <p>【s 評価】 内水ハザードマップの作成・公表について、出前講座を令和3年度計画どおり「4回」実施した。 具体的な取組として、新型コロナウイルス感染症の影響で延期した講座があったものの、年度内に4回実施した。 また、市民理解度は、令和3年度計画「80%以上」に対し、「92%」の実績で、達成率115.0%となったため、「s」評価とした。</p> | |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------------|--|--|
| ◎ | ③雨水幹線・ポンプ場などの整備 【下水道】 | <p>【b評価】 雨水幹線・ポンプ場などの整備について、雨水幹線・ポンプ場などの完了地区数は、令和3年度計画「1地区」に令和2年度までに未達成であった「1地区」を加えた「2地区」に対し、「1地区」となった。次に対策実施地区数は、令和3年度計画「5地区」に令和2年度までに未達成であった「1地区」を加えた「6地区」に対し、「5地区」であった。</p> <p>具体的な取組として、対策完了地区数は、令和2年度までに未達成であった「小鹿三丁目」地区は、地元から当該工事区間の既設道路側溝の改修要望があり、道路改修工事との同調により遅れていたが、令和3年5月に完了した。しかし、対策完了予定であった「高橋雨水ポンプ場」は、建築基準法違反が覚知されたため、是正に要した期間の令和4年1月21日から3月14日まで工事を停止した。これにより、令和3年度末の供用開始が順延したため、対策完了地区の実績値は1地区となった。次に対策実施地区数は、「押切・石川新町」地区では、雨水放流先の和田川について建設局の整備に合わせる必要が生じたため工事着手を見送っており、実績値は5地区となった。</p> <p>また、浸水対策率は令和3年度計画「61.5%」に対し、「57.6%」の実績で、達成率は93.6%となり「a」評価であるものの、「高橋雨水ポンプ場」における事務事業事故は内的要因によるもので、工事遅延については改善の余地があると判断し「b」評価とする。</p> | <p>【b評価】 雨水幹線・ポンプ場などの整備について、工事遅延は改善の余地があるとして、「b」評価とした。</p> <p>高橋雨水ポンプ場における事故を教訓として、再発防止の取組を着実に実施し、法令遵守を徹底するとともに、異常気象による豪雨による浸水被害から市民の生活を守るため、整備を着実に推進するよう努めること。</p> <p>なお、成果指標である浸水対策率の達成率を踏まえ、「a」とする評価もあった。</p> |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|-----------------|---|
| ③雨水幹線・ポンプ場などの整備 | <p>「高橋雨水ポンプ場」の事務事業事故による工事遅延についての業務改善への取組として、チェック体制の強化やコンプライアンスに対する意識向上、職員教育など「応急対策」を実施する。また令和4年度より、静岡市上下水道事業内部評価委員会で事務事業事故や事例の共有、再発防止策の進行管理を年4回(四半期に1回)程度開催するなど「恒久対策」も併せて実施し、工事の遅延要因の改善を図る。</p> |
|-----------------|---|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 |
|----------------------|------------|--------------------------------|-----|------------------|-----------------|--------------------------|--------------------|
| ①雨水総合排水計画の更新 | 活動指標 | 雨水総合排水計画の更新 | 計画値 | 基本構想 | 基本計画 短期計画地区 | 基本計画 中期計画地区 | 基本計画 長期計画地区 |
| | | | 実績値 | 基本構想 素案 | 基本計画 短期計画地区 | 基本計画 中期計画地区 | |
| | 成果指標 | 計画策定進捗率 | 計画値 | — | 32% | 62% | 100% (基本計画策定完了) |
| | | | 実績値 | — | 32% | 62% | |
| | 達成率 | | | 目標達成に向けて成果が出ていない | 100% | 100% | |
| | 自己評価 | | | c | a | a | |
| | 外部評価 | | | c | | | |
| ②内水ハザードマップの作成・公表 | 活動指標 | マップ作成・公表地区数 | 計画値 | 1地区 (全地区完了) | — | — | — |
| | | | 実績値 | 1地区 (全地区完了) | — | — | |
| | | マップ更新回数 | 計画値 | — | 1回 | — | — |
| | | | 実績値 | — | 1回 | — | |
| | 出前講座・説明会など | 計画値 | 3回 | 3回 | 4回 | 4回 | |
| | | 実績値 | 6回 | 4回 | 4回 | | |
| | 成果指標 | 浸水被害の軽減のための市民理解度 | 計画値 | 80%以上 | 80%以上 | 80%以上 | 80%以上 |
| | | | 実績値 | 94% | 96% | 92% | |
| | 達成率 | | | 117.5% | 120% | 115% | |
| | 自己評価 | | | s | s | s | |
| 外部評価 | | | | | | | |
| ◎ ③雨水幹線・ポンプ場などの整備 | 活動指標 | 雨水幹線・ポンプ場などの完了地区数 (対策実施地区数) | 計画値 | 4地区 (6地区) | 0地区 (5地区) | 1地区 (5地区) | 0地区 (4地区) |
| | | | 実績値 | 1地区 (8地区) | 2地区 (7地区) | 1地区 (5地区) | |
| | 成果指標 | 浸水対策率 (対策完了地区数) | 計画値 | 57.7% (15地区) | 57.7% (15地区) | 61.5% (16地区) | 61.5% (16地区) |
| | | | 実績値 | 46.2% (12地区) | 53.8% (14地区) | 57.6% (15地区) | |
| | 達成率 | | | 80.1% | 93.2% | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | |
| | 自己評価 | | | b | a | b | |
| | 外部評価 | | | b | a | b | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | A | <p>浸水対策について、令和元年度は「B」評価、令和2年度は「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち、1つの事務事業は計画どおりの実施となり、1つの事務事業は令和2年度に引き続き計画を上回る実施となった。</p> <p>しかし、「③雨水幹線・ポンプ場などの整備」の事務事業は、「高橋雨水ポンプ場」の事務事業事故による工事遅延は内的要因であり、改善の余地があるとして「b」評価としたものの、成果指標である「浸水対策率」の達成率は93.6%となっている。</p> <p>以上のことから、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

| | | |
|----------|---|---|
| 外部 評価 | A | <p>浸水対策について、令和元年度は「B」評価、令和2年度は「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち、1つの事務事業は計画どおりの成果となり、1つの事務事業は令和2年度に引き続き計画を上回る成果となった。</p> <p>以上のことから、浸水被害の軽減を図る施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> <p>（評価に付随した意見） 各事務事業の評価にばらつきがある中で、複数年度の評価を行うことの難しさを感じる。</p> |
|----------|---|---|

■ 次期計画に向けて

（上下水道局）

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | <p>浸水対策は、年度により進捗に波があるものの、おおむね計画どおりに事業を実施した。</p> <p>また、ハード対策を講じた地区については、浸水被害の軽減につながっている。</p> |
| 課題点 | <p>浸水対策は、市民生活の安全・安心の確保につながるため、工事の遅れを取り戻すとともに、近年の異常気象を踏まえ、多くの市民の皆さんに内水ハザードマップの周知を行う必要がある。</p> |

（上下水道事業経営協議会）

| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・「高橋雨水ポンプ場」の事務事業事故による工事遅延があったとしても、浸水対策の達成率が93.6%ということで、評価してもよいのではと考えます。 ・計画どおり工事が進めば効果は大きいと考えます。 ・②内水ハザードマップの作成・公表 マップを作成更新することに留まらず出前講座や説明会で市民の理解度を年々上げていくことは素晴らしい取り組みだと思います。引き続き市民のハザードマップ認知度を上げて欲しいです。 ・計画を上回った点は評価できます。 |
|------------|--|

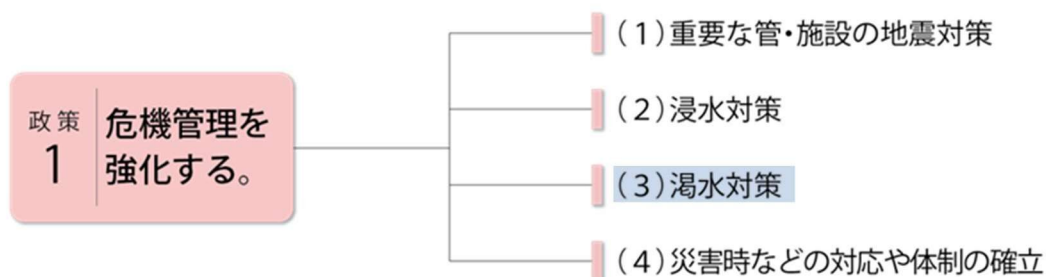
| | |
|--------|--|
| 改善すべき点 | ・「高橋雨水ポンプ場」の事務事業事故に関しては、改善する良い機会と捉え、緊張感をもって臨んでもらいたいです。 |
|--------|--|

■今後の方向性

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | 浸水対策については、適正な進行管理を行い、引き続き浸水被害の軽減に向けて計画的に事業を推進していく。 また、内水ハザードマップの活用方法などをより多くの市民の皆さんに理解してもらうため、積極的な周知活動を検討していく。 |
|--------|--|

| | | |
|-----|---|------|
| 施策名 | 1-(3) | 渇水対策 |
| 目的 | この施策は、「水の相互運用」の事務事業により、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指すものである。 | |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------|---|--------------------|
| ◎ | ①水の相互運用 【水道】 | <p>【a 評価】 水の相互運用について、令和元年度に「北部ルート」が完成し、令和2年度には「配水池運用」を開始した。 具体的な取組として、清水区の一部区域（柏尾、大内、鳥坂、梅ヶ谷地区など）への配水のため柏尾配水池の常時運用を行なった。 また、給水制限日数は令和3年度計画どおり「0日」となり、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 |
|------|---------|------|-----------|-----|--------------|--------------|--------------|-------|
| ◎ | ①水の相互運用 | 活動指標 | 北部ルート運用開始 | 計画値 | 工事完成 通水作業 | 配水池運用 開始 | — | — |
| | | | | 実績値 | 工事完成 通水作業 | 配水池運用 開始 | — | |
| | | 成果指標 | 給水制限日数 | 計画値 | — | 0日 | 0日 | 0日 |
| | | | | 実績値 | 0日 | 0日 | 0日 | |
| | | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | |
| 外部評価 | | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | A | <p>渇水対策について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても、施策を構成する事務事業「水の相互運用」が計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指す施策の目的が達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1～3) | 渇水対策として、令和2年度に北部ルート of 運用を開始し、水の相互運用事業として予定していたハード的整備が完了した。 |
| 課題点 | 第4次中期経営計画期間で予定している事業が完了したため課題はない。 |

(上下水道事業経営協議会)

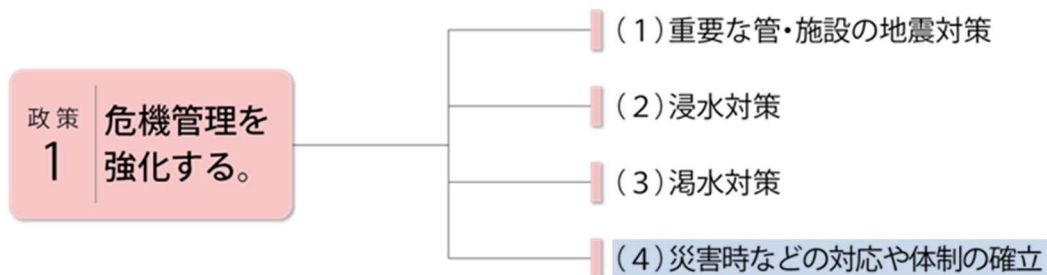
| | |
|------------|---------------------------|
| 評価 できる点 | ・水の相互運用が計画どおり進捗した点を評価します。 |
| 改善 すべき点 | なし |

■ 今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | <p>渇水対策について、異常渇水にあっても水道サービスの提供を絶やさないためにも、完成した施設を適正に管理・運用していく。</p> <p>また、水の相互運用事業により完成した施設は、施設の統廃合などの事業において重要な役割を果たすことを踏まえ、効果を最大限発揮できるよう有効活用に努める。</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|--|
| 施策名 | 1-(4) 災害時などの対応や体制の確立 |
| 目的 | この施策は、「事業継続計画（BCP）の充実・定着」及び「災害時活動拠点の整備」の2つの事務事業により、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|----------------------------|--|--------------------|
| | ①事業継続計画（BCP）の充実・定着 【共通】 | <p>【a 評価】 事業継続計画（BCP）の充実・定着について、令和3年度計画どおり「実施検証」した。</p> <p>具体的な取組として、水道事業においては、災害時の班編成や情報連絡体制の見直しを行い、これまで配備していたアナログ無線に代わる新たな情報通信機器（ハザードトーク）を購入し、配備した。配備後には、これまで曖昧であった災害時の情報伝達システムを整理し、改定後の班編成にてハザードトークを活用した情報伝達が災害時に機能するか検証するため、水道部の防災訓練において情報伝達を中心とした訓練を行った。下水道事業においては、災害時に職員がとるべき行動手順を記載した下水道BCPポケットブックを作成し、研修を実施した。</p> <p>さらに、令和3年12月には、水道事業と下水道事業が連携し、市民が実施する防災訓練に参加し、災害時の給水方法及び携帯トイレの備蓄の必要性等を周知することで、「自助」「共助」の必要性をPRすることができた。</p> <p>また、水道・下水道事業の災害対策訓練実施回数は令和3年度計画どおり「5回」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|---------------------|---|--------------------|
| ◎ | ②災害時活動拠点の整備 【共通】 | <p>【a評価】 災害時活動拠点の整備について、耐震性貯水槽の整備を令和3年度に「1基」設置した。これは、設置工事を令和2年度に発注したが、想定以上の湧水により、付帯工事が年度内に完了せず、完成が令和3年度になったことによるものである。</p> <p>令和3年度の具体的な取組として、駿河区中島児童館に、耐震性貯水槽1基を設置する工事を5月に完了した。さらに、給水拠点の整備を効果的に進めるため、耐震性貯水槽に限定しない多様な整備手法の導入検討を行った。</p> <p>また、災害時、1週間に必要となる水を供給できる人数は、令和3年度計画「203,200人」に対し、「203,200人」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | |
|------|--------------------|------|------------------------|------|--------------|----------|----------|----------|
| ◎ | ①事業継続計画(BCP)の充実・定着 | 活動指標 | 事業継続計画(BCP)の充実・定着 | 計画値 | 実施検証 | 実施検証 | 実施検証 | |
| | | | | 実績値 | 実施検証 | 実施検証 | 実施検証 | |
| | | 成果指標 | 災害対策訓練実施回数 | 計画値 | 5回 | 5回 | 5回 | 5回 |
| | | | | 実績値 | 5回 | 5回 | 5回 | |
| | | 達成率 | | 100% | 100% | 100% | | |
| | | 自己評価 | | a | a | a | | |
| 外部評価 | | | | | | | | |
| ◎ | ②災害時活動拠点の整備 | 活動指標 | 耐震性貯水槽の設置 | 計画値 | 1基設置 | 1基設置 | — | 1基設置 |
| | | | | 実績値 | 1基設置 | — | 1基設置 | |
| | | 成果指標 | 災害時、1週間に必要となる水を供給できる人数 | 計画値 | 198,400人 | 203,200人 | 203,200人 | 208,000人 |
| | | | | 実績値 | 198,400人 | 198,400人 | 203,200人 | |
| | | 達成率 | | 100% | 計画どおり成果が出ている | 100% | | |
| | | 自己評価 | | a | a | a | | |
| | | 外部評価 | | | a | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | A | <p>災害時などの対応や体制の確立について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、成果も出ている。</p> <p>以上のことから、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | 災害時などの対応や体制の確立について、計画どおりに実施した。 |
| 課題点 | <p>災害時非常時に迅速・的確な対応をし、サービスの提供を絶やさないよう、職員に事業継続計画がより一層定着するよう努める必要がある。</p> <p>また、給水拠点は、災害等非常時の飲料水確保における「共助」の拠点となり、有事には地元住民のみで応急給水活動をしなければならない可能性があることから、職員が不在であっても拠点を活用できる体制を整える必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

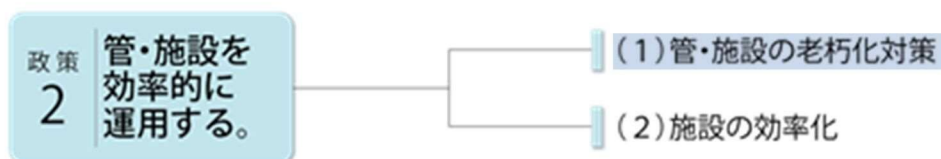
| | |
|------------|--------------------------|
| 評価 できる点 | ・ 拠点整備が計画どおり進捗した点を評価します。 |
| 改善 すべき点 | なし。 |

■ 今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | <p>災害時などの対応や体制の確立について、引き続き災害時等非常時に事業を継続して提供できるよう、マニュアルの整備や職員・関係団体への研修・訓練により、応急対応の定着を図っていく。</p> <p>また、地震等発生時に迅速な復旧活動が可能となるよう、災害発生時の給水拠点の整備を加速させていく。</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 2-(1) 管・施設の老朽化対策 |
| 目的 | この施策は、「中長期計画の更新」、「水道管の更新」、「下水道管の改築」、「水道施設の更新」、「下水道施設の改築」、「水道管の漏水対策」及び「下水道管の不明水対策」の7つの事務事業により、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------|--|---|
| | ① 中長期計画の更新 【共通】 | <p>【a 評価】 中長期計画の更新について、令和3年度計画どおり「情報収集・データ蓄積」を実施した。 具体的な取組として、水道部では、静岡市水道施設中長期更新計画策定業務を発注し、年次計画の見直しを行った。下水道部では、静岡市公共下水道再構築基本計画策定業務を発注し、次期計画反映に向けて事前準備をおこなった。 また、計画策定進捗率は令和3年度計画どおり「75%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ② 水道管の更新 【水道】 | <p>【b 評価】 水道管の更新について、水道管（配水支管）の更新を令和3年度計画「21.4km」に対し、「15.7km」実施した。 具体的な取組として、配水支管の更新調査・設計・工事を実施した。 また、管路の更新率は令和3年度計画「0.90%」に対し、「0.71%」の実績で、達成率は78.9%となったため、「b」評価とした。</p> | <p>【b 評価】 水道管の更新について、計画をやや下回っている。 老朽化した水道管の更新は、安定給水につながることから、遅れの原因となる入札不調の改善を図る取組は評価できるが、継続的に検討・実施し、更新を計画的に進めるよう努めること。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|---------------------|--|---|
| ◎ | ③ 下水道管の改築 【下水道】 | <p>【a 評価】</p> <p>下水道管の改築について、下水道管の改築を令和3年度計画「4.9km」に対し、「5.3km」実施した。</p> <p>具体的な取組として、老朽化が進んでいる処理区のカメラ及び目視調査・設計及び改築工事を実施した。</p> <p>また、管きよ 100km 当たりの陥没箇所数は令和3年度計画「0.4 箇所」に対し、「0.28 箇所」と目標を上回り、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | <p>【a 評価】</p> <p>下水道管の改築について、計画どおりに進捗している。</p> <p>老朽化した下水道管の改築は、安定した排水処理と安心できる道路通行につながるため、今後も老朽化した管の調査・改築を計画的に進めるよう努めること。</p> |
| ◎ | ④ 水道施設の更新 【水道】 | <p>【a 評価】</p> <p>水道施設の更新について、水道施設(設備)の更新数を令和3年度計画どおり「7箇所」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、駿河区中央・遠方監視制御設備改良工事ほか6箇所を実施した。</p> <p>また、更新実施率は令和3年度計画「19.8%」に対し、「19.8%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | <p>【a 評価】</p> <p>水道施設の更新について、計画どおりに進捗している。</p> <p>全国的に半導体や部品類の流通、供給が滞る中、計画どおりに進捗していることは評価できる。</p> <p>引き続き、着実な更新を進めるよう努めること。</p> |
| ◎ | ⑤ 下水道施設の改築 【下水道】 | <p>【a 評価】</p> <p>下水道施設の改築について、下水道施設の改築数を令和3年度計画「9箇所」に対し、「9箇所」実施した。</p> <p>具体的な取組として、城北浄化センターNo.5・6最終沈殿池設備改築工事や愛染ポンプ場雨水沈砂池設備改築工事などを実施した。</p> <p>また、成果指標である改築実施率は令和3年度計画「16.2%」に対し、「18.8%」の実績で、達成率は前年度までの実績の影響により116.0%となったが、令和3年度活動指標の下水道施設の改築数実績は計画どおりであったため、「a」評価とした。</p> | <p>【a 評価】</p> <p>下水道施設の改築について、計画どおりに進捗している。</p> <p>全国的に半導体や部品類の流通、供給が滞る中、計画どおりに進捗していることは評価できる。</p> <p>引き続き、着実な更新を進めるよう努めること。</p> |
| ◎ | ⑥ 水道管の漏水対策 【水道】 | <p>【s 評価】</p> <p>水道管の漏水対策について、令和3年度計画「漏水調査：計12地区」に対して、「漏水調査：全20地区」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、漏水調査延長2,214kmに対し、配水管等で248箇所の漏水を発見し修繕した。</p> <p>また、管路点検率は令和3年度計画「52.7%」に対し、「84.7%」の実績で、達成率は160.7%となったため、「s」評価とした。</p> | <p>【s 評価】</p> <p>水道管の漏水対策について、計画を上回る実績であることを評価する。</p> <p>漏水対策は早期発見・修繕が非常に重要なため、入札差金を活用し、全地区調査できたことは評価できる。</p> <p>漏水対策は漏水量の軽減、有収率の向上、事故の抑制につながるため、引き続き対策を進めるよう努めること。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|--|--------------------|
| | ⑦ 下水道管の不明水対策 【下水道】 | <p>【a評価】 下水道管の不明水対策について、対策案策定完了地区数（検討実施地区数）を令和3年度計画どおり「1地区（3地区）」実施した。 具体的な取組として、静清処理区＜A地区＞、南部処理区で調査、解析を実施した。 また、対策案策定率は、令和3年度計画どおり「24%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|----------|--|
| ② 水道管の更新 | <p>入札不調対策については、受注者の工事の施工（受注）具合を勘案して、大規模発注(令和3年度:5件→令和4年度:12件計画)、債務負担行為(令和3年度:9件→令和4年度:15件計画)を更に活用し、全体の発注件数の抑制を図っていく。 また、着手日選択制度の実施や概算数量設計(令和3年度:5件→令和4年度:7件計画)による工事発注時期を調整しながら実施することにより、施工業者が受注しやすい環境を整えていく。 施工業者の技術者不足については、市主催の配管講習会等を継続的に開催し、技術者の更なる確保を図っていく。</p> |
|----------|--|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|------------|-------|----------------------|-----|---------------|--------------------------------|---------------|--------------|
| ① 中長期計画の更新 | 活動指標 | 中長期計画の 検証・更新 | 計画値 | 情報収集 データ蓄積 | 情報収集 データ蓄積 | 情報収集 データ蓄積 | 次期計画への 反映 |
| | | | 実績値 | 情報収集 データ蓄積 | 情報収集 データ蓄積 ・年次計画の 見直し | 情報収集 データ蓄積 | |
| | 成果指標 | 計画策定 進捗率 | 計画値 | 25% | 50% | 75% | 100% |
| | | | 実績値 | 25% | 50% | 75% | |
| | 達成率 | | | 100% | 100% | 100% | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| 外部評価 | | | | | | | |
| ◎ ② 水道管の更新 | 活動指標 | 水道管 (配水支管)の 更新 | 計画値 | 7.7 km | 13.1 km | 21.4 km | 28.1 km |
| | | | 実績値 | 7.0 km | 9.8km | 15.7km | |
| | 成果指標 | 管路の 更新率 | 計画値 | 0.34% | 0.60% | 0.90% | 1.20% |
| | | | 実績値 | 0.32% | 0.44% | 0.71% | |
| | 達成率 | | | 94.1% | 73.3% | 78.9% | |
| | 自己評価 | | | a | b | b | |
| 外部評価 | | | a | b | b | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|----|-----------|------|-------------------|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|
| ◎ | ③下水道管の改築 | 活動指標 | 下水道管の改築 | 計画値 | 3.0km | 4.9km | 4.9km | 4.8km | |
| | | | | 実績値 | 2.6km | 3.9km | 5.3km | | |
| | | 成果指標 | 管きよ100km当たりの陥没箇所数 | 計画値 | 0.4 箇所/100km以下 | 0.4 箇所/100km以下 | 0.4 箇所/100km以下 | 0.4 箇所/100km以下 | |
| | | | | 実績値 | 0.32 | 0.24 | 0.28 | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおりの成果が出ている | 計画どおりの成果が出ている | 計画どおりの成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | a | a | a | |
| ◎ | ④水道施設の更新 | 活動指標 | 水道施設(設備)の更新数 | 計画値 | 6 箇所 | 7 箇所 | 7 箇所 | 7 箇所 | |
| | | | | 実績値 | 6 箇所 | 7 箇所 | 7 箇所 | | |
| | | 成果指標 | 更新実施率 | 計画値 | 5.9% | 12.8% | 19.8% | 26.7% | |
| | | | | 実績値 | 5.9% | 12.8% | 19.8% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 100% | 100% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | a | a | a | |
| ◎ | ⑤下水道施設の改築 | 活動指標 | 下水道施設の改築数 | 計画値 | 9 箇所 | 8 箇所 | 9 箇所 | 9 箇所 | |
| | | | | 実績値 | 10 箇所 | 11 箇所 | 9 箇所 | | |
| | | 成果指標 | 改築実施率 | 計画値 | 5.6% | 10.6% | 16.2% | 21.8% | |
| | | | | 実績値 | 6.3% | 13.1% | 18.8% | | |
| | | 達成率 | | | | 112.5% | 123.5% | 計画どおりの成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | s | s | a | |
| | | 外部評価 | | | | s | s | a | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|----|-------------|------|--|-------|------------|--------------|--------------|--------------|--|
| ◎ | ⑥水道管の漏水対策 | 活動指標 | 漏水調査 【1段目: 調査地区数】 (内訳) 【2段目: 1年に1回】 【3段目: 2年に1回】 【4段目: 3年に1回】 | 計画値 | 14 地区 | 14 地区 | 12 地区 | 13 地区 | |
| | | | | | 8 地区 | 8 地区 | 8 地区 | 8 地区 | |
| | | | | | 4 地区 | 3 地区 | 4 地区 | 3 地区 | |
| | | | | | 2 地区 | 3 地区 | 0 地区 | 2 地区 | |
| | | | | 実績値 | 14 地区 | 14 地区 | 20 地区 | | |
| | | | | | 8 地区 | 8 地区 | 8 地区 | | |
| | | | | | 4 地区 | 3 地区 | 7 地区 | | |
| | | | | | 2 地区 | 3 地区 | 5 地区 | | |
| | | 成果指標 | 管路点検率 | 計画値 | 60.1% | 54.7% | 52.7% | 51.1% | |
| | | | | 実績値 | 60.1% | 55.5% | 84.7% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 101.5% | 160.7% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | s | |
| | | 外部評価 | | | | a | a | s | |
| | ⑦下水道管の不明水対策 | 活動指標 | 対策案策定完了地区数 (検討実施地区数) | 計画値 | — (3地区) | 1地区 (4地区) | 1地区 (3地区) | 1地区 (2地区) | |
| | | | | 実績値 | — (3地区) | 1地区 (4地区) | 1地区 (3地区) | | |
| | | 成果指標 | 対策案策定率 | 計画値 | 7% | 17% | 24% | 27% | |
| | | | | 実績値 | 7% | 17% | 24% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 100% | 100% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | B | <p>管・施設の老朽化対策について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する7つの事務事業のうち、5つの事務事業が計画どおりの実施で、1つの事務事業が計画を上回る実施となり、これらの事務事業は令和2年度に引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「②水道管の更新」の事務事業は、成果指標の「管路の更新率」は改善傾向にあるものの、令和2年度に引き続き令和3年度計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
| 外部 評価 | B | <p>管・施設の老朽化対策について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する7つの事務事業のうち、5つの事務事業が計画どおり、1つの事務事業が計画を上回り、1つの事務事業は、令和2年度に引き続き計画を下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応するという施策の目的が達成されているとはいえないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> <p>なお、目標未達成の要因である入札不調に対して、期待できる改善策が示されていることから、「A」とする評価もあった。</p> |

■ 次期計画に向けて

(上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1～3) | <p>水道事業においては、「水道管の更新」を第3次中期経営計画より事業を加速して実施しているものの、入札不調などの要因により、令和2年度から計画に遅れが生じている。</p> <p>また、下水道事業の下水道管の不明水対策については、令和4年度までに実施した不明水対策案を耐震及び老朽化対策の計画に含め、順次実施していく。</p> |
| 課題点 | <p>水道事業においては、入札不調の改善に向け取り組んでいるものの、受注者の担い手の不足など、短期的に解決できる課題ではないため、今後とも継続した対策を講じる必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する7事業の内5つが計画どおり、1つは計画を上回る成果が出ていると思います。しかし「水道管の更新」だけは計画を下回っています。ただ、「管・施設の老朽化対策」を目指す施策の目的については一定程度の成果が出ているので、達成していないとはいえ評価できると思います。 ・入札不調、資材調達難の中で予定どおり施設の改築が進んでいると思います。 ・②水道管の更新は「b」評価だが、令和2年度より令和3年度の方が達成率は上がっており、入札不調の改善を図る取り組みが評価できます。管・施設の老朽化対策は、市民が安心して生活ができることにつながるため、今後の改善を図る努力を進めていただきたいです。 |
|------------|--|

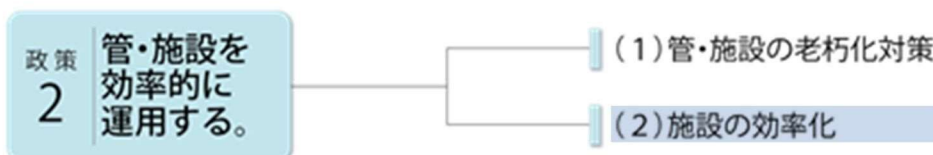
| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">改善 すべき点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「水道管の更新」の遅れの原因が入札不調であり、その対策が講じられているのですが、根本的に施工業者の技術者不足が原因だとすると、改善にはかなりの困難を伴うと思われます。今建設業界などでも現場で作業する技術者が不足しており、若い人材を確保していくためには、業界を挙げて対策を講じていく必要があると思います。 ・管・施設の老朽化の対応はしっかりしてほしいです。 |
|---|---|

■今後の方向性

| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">今後の 方向性</p> | <p>「管・施設の老朽化対策」については、サービスを将来にわたって維持できるよう、適正な進行管理を行い、事業の着実な実施に努める。</p> <p>水道事業での入札不調については、主たる要因が施工業者の技術者不足であることから、長期で解決すべき課題と捉え、受注環境の改善のため、対策を継続的に実施していく。</p> <p>また、必要な財源の確保に努めるとともに、社会情勢の急激な変化に伴う資材費や労務単価の動向を注視し、必要に応じて計画の変更等を検討していく。</p> |
|---|---|

| | |
|-----|--|
| 施策名 | 2-(2) 施設の効率化 |
| 目的 | この施策は、「施設の小規模化・統廃合」及び「水運用計画の策定」の2つの事務事業により、水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|------------------------------|--|--------------------|
| ◎ | ①施設の 小規模化・統 廃合 【水道】 | <p>【a 評価】 施設の 小規模化・統 廃合について、 施設の統廃合を 令和3年度計画 どおり「1施設 停止」を実施 した。 具体的な取組 として、老朽 化した蒲原 城山配水池の 解体に先立ち、 配水池の運用 を停止した。 また、軽減額 は令和3年度 計画「1,940 万円」に対し、 「2,010万円」 の実績で、達 成率は103.6% となったため、 「a」評価と した。</p> | |
| | ②水運用計 画の策定 【水道】 | <p>【a 評価】 水運用計画の 策定について、 令和2年度計 画に引き続き、 「計画策定」 を実施した。 具体的な取組 として、どの 地域にどの施 設・管を利用 して、どの水 源の水をどれ だけ配ることが 最適かを考え、 配水ブロック 化、小規模化・ 統廃合等を 決定し、清水 地区（旧清水 市）の水運用 計画の策定を 完了した。 また、計画策 定進捗率は令 和3年度計画 どおり「100%」 の実績で、達 成率は100% となったため、 「a」評価と した。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 |
|----------------------|--------------------|-------------|-------|------------------------|-------------------------------------|----------|-----------------------------|
| ①施設の 小規模化・統 廃合 | 活動 指標 | 施設の 統廃合 | 計画値 | 2 施設停止 | 1 施設停止 | 1 施設停止 | 中町浄水場・配 水池跡地の利活 用方針決定 |
| | | | 実績値 | 2 施設停止 | 1 施設停止 中町浄水場・配 水池跡地の利活 用決定 | 1 施設停止 | |
| | 成果 指標 | 軽減額 | 計画値 | 0 万円 | 998 万円 | 1,940 万円 | 1,952 万円 |
| | | | 実績値 | 120 万円 | 1,017 万円 | 2,010 万円 | |
| | 達成率 | | | 目標以上の 成果があが っている | 101.9% | 103.6% | |
| | 自己評価 | | | s | a | a | |
| | 外部評価 | | | | a | | |
| | ◎ ②水運用計 画の策定 | 活動 指標 | 水運用計画 | 計画値 | 委託発注 作業部会 設置 | 計画策定 | — |
| 実績値 | | | | 委託発注 作業部会 設置 | 計画策定 | 計画策定 | |
| 成果 指標 | | 計画策定 進捗率 | 計画値 | 25% | 100% | 100% | 100% |
| | | | 実績値 | 25% | 90% | 100% | |
| 達成率 | | | 100% | 90.0% | 100% | | |
| 自己評価 | | | a | a | a | | |
| 外部評価 | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | A | <p>施設の効率化について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても施策を構成する全ての事務事業で、引き続き計画どおりの実施となり、成果が出ている。</p> <p>以上のことから水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の目的が達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は、「A」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | 水水運用計画を策定し、谷津山配水池の停止や施設の統廃合などを実施した。 |
| 課題点 | 令和3年度の北部ルートの完成をもって、これまでの整備拡張から再構築に事業を転換したことから、「維持管理費の軽減」にのみ着目するのではなく、一歩先を見据え、施設の効率化に係る取組がカーボンニュートラルに寄与するものであることを踏まえ、温室効果ガス低減の効果についても明らかにしていく必要がある。 |

(上下水道事業経営協議会)

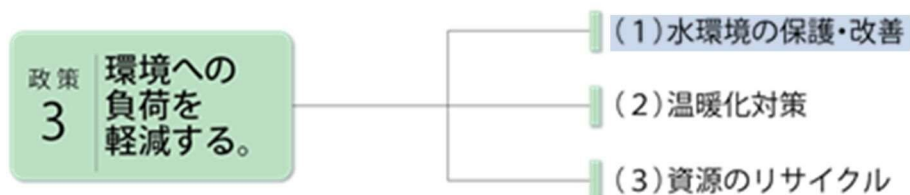
| | |
|------------|-------------------------------|
| 評価 できる点 | ・管理が必要な施設数を減らすことができたことを評価します。 |
| 改善 すべき点 | なし。 |

■ 今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | 施設の効率化について、持続可能に事業を継続していくため、引き続き施設規模の適正化に努め、維持管理費の軽減を図っていくとともに、脱炭素社会の実現に向けて適正化に伴う温室効果ガス低減の効果を示すよう検討していく。 |
|------------|--|

| | | |
|-----|---|------------------|
| 施策名 | 3-（1） | 水環境の保護・改善 |
| 目的 | この施策は、「水源涵養林の維持管理」、「下水道計画区域内の整備」、「水洗化戸数の増加」及び「浄化センターからの放流水質の安定的な維持」の4つの事務事業により、上下水道に係る水環境を守るとともに改善を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。 | |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|---|--------------------|
| | ①水源涵養林の維持管理 【水道】 | <p>【a 評価】 水源涵養林の維持管理について、令和3年度計画「5.5ha」に対し、「5.7ha」実施した。 具体的な取組として、山林の状態を見て判断しながら下刈り及び間伐を実施した。 また、取水量1㎡当たり水源保全投資額は、令和3年度計画どおり「0.16円/㎡」の実績で、達成率は100%となった。次に維持管理総面積に対する進捗率は、令和3年度計画「52.1%」に対し、「57.5%」の実績で、達成率は110.3%となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ②下水道計画区域内の整備 【下水道】 | <p>【a 評価】 下水道計画区域内の整備について、下水道の整備済面積を令和3年度計画値「25ha」に対し、「32ha」実施した。 具体的な取組として、片山、大谷、西久保、興津等の整備を実施した。 また、下水道整備率は令和3年度計画「93.0%」に対し、「93.1%」の実績で、達成率は100.1%となったため「a」評価とした。</p> | |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------------------|--|--------------------|
| ◎ | ③水洗化戸数の増加 【下水道】 | <p>【a評価】 水洗化戸数の増加について、臨戸訪問の実施を令和3年度計画「40,000戸」に対し、「43,335戸」実施した。 具体的な取組として、新規供用開始区域へ重点的に臨戸訪問を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大により、活動自粛期間があった中、未水洗家屋台帳システムを活用し、未接続家屋に対する現地調査、訪問活動及び文書勧告を効率的に行った。 また、水洗化率は令和3年度計画「91.4%」に対し、「91.0%」の実績で、達成率は99.6%となったため、「a」評価とした。</p> | |
| | ④浄化センターからの放流水質の安定的な維持 【下水道】 | <p>【a評価】 浄化センターからの放流水質の安定的な維持について、令和3年度計画のとおり「実施」した。 具体的な取組として、全7浄化センターで各60回(計420回)水質検査を実施し、BODは目標値の日平均8mg/Lを4回上回ってしまったが(下水道法上の基準は下回った)、SSは全て目標値の日平均20mg/L以下だった。 また、目標水質達成率(BOD)は令和3年度計画「100%」に対し、「99.0%」の実績で、達成率は99.0%となった。次に目標水質達成率(SS)は令和3年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | |
|-------------|-------|-------------------------------|------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| ①水源涵養林の維持管理 | 活動指標 | 水源涵養林の維持管理 | 計画値 | 5.4ha | 5.9ha | 5.5ha | 5.4ha |
| | | | 実績値 | 5.4ha | 7.4ha | 5.7ha | |
| | 成果指標 | 取水量1m ³ 当たり水源保全投資額 | 計画値 | 0.16円/m ³ | 0.16円/m ³ | 0.16円/m ³ | 0.16円/m ³ |
| | | | 実績値 | 0.16円/m ³ | 0.16円/m ³ | 0.16円/m ³ | |
| | | 維持管理総面積に対する進捗率 | 計画値 | 16.7% | 35.0% | 52.1% | 68.9% |
| | | | 実績値 | 16.7% | 39.7% | 57.5% | |
| | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| 外部評価 | | | | | | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | |
|----|-----------------------|------|----------------------|-------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| ◎ | ②下水道計画区域内の整備 | 活動指標 | 下水道の整備済面積 | 計画値 | 40ha | 30ha | 25ha | 25ha |
| | | | | 実績値 | 43ha | 28ha | 32ha | |
| | | 成果指標 | 下水道整備率 (下水道整備済面積) | 計画値 | 92.4% (8,975ha) | 92.7% (9,005ha) | 93.0% (9,030ha) | 93.3% (9,055ha) |
| | | | | 実績値 | 92.5% (8,978ha) | 92.8% (9,007ha) | 93.1% (9,039ha) | |
| | | 達成率 | | | 100.1% | 100.1% | 100.1% | |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | |
| ◎ | ③水洗化戸数の増加 | 活動指標 | 臨戸訪問の実施 | 計画値 | 34,000 戸 | 40,000 戸 | 40,000 戸 | 40,000 戸 |
| | | | | 実績値 | 40,201 戸 | 42,443 戸 | 43,335 戸 | |
| | | 成果指標 | 水洗化率 | 計画値 | 90.4% | 91.2% | 91.4% | 91.6% |
| | | | | 実績値 | 90.4% | 90.7% | 91.0% | |
| | | 達成率 | | | 100% | 99.5% | 99.6% | |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | |
| | ④浄化センターからの放流水質の安定的な維持 | 活動指標 | 浄化センターからの放流水質の安定的な維持 | 計画値 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 |
| | | | | 実績値 | 実施 | 実施 | 実施 | |
| | | 成果指標 | 目標水質達成率 (BOD) | 計画値 | 100% | 100% | 100% | 100% |
| | | | | 実績値 | 99.3% | 100% | 99.0% | |
| | | 成果指標 | 目標水質達成率 (SS) | 計画値 | 100% | 100% | 100% | 100% |
| | | | | 実績値 | 100% | 100% | 100% | |
| | | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|---|
| 自己 評価 | A | <p>水環境の保護・改善について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、上下水道に係る水環境の保護・改善を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|----------|---|---|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | 水環境の保護・改善について、計画どおり実施した。 |
| 課題点 | 下水道計画区域内の整備を進め、水洗化率の向上を図ることが、水環境の保護・改善につながるため、今後も継続して事業の進捗管理を徹底し、着実に対策を進めていく必要がある。 |

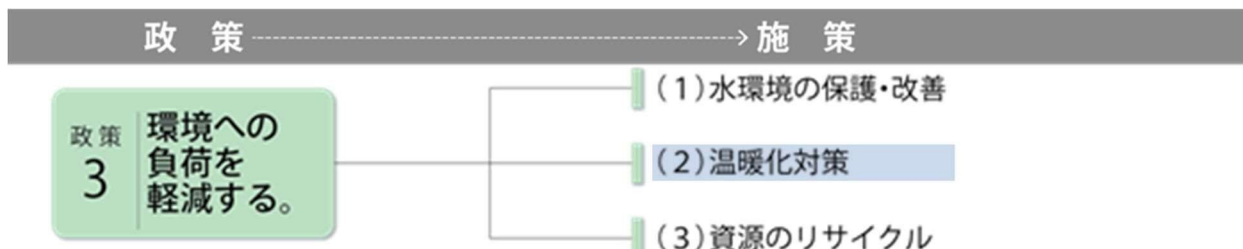
(上下水道事業経営協議会)

| | |
|------------|------------------------------|
| 評価 できる点 | ・各取組とも計画どおりの成果が出ていることを評価します。 |
| 改善 すべき点 | なし |

■ 今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | 水環境の保護・改善について、水環境を守るとともに改善を図るため、引き続き適正な進行管理を行い、下水道計画区域内の整備及び水洗化率の向上に努めていく。 |
|------------|--|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 3-（2） 温暖化対策 |
| 目的 | この施策は、「自然エネルギーの活用」及び「省エネルギー対策」の2つの事務事業により、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。 |



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|---------------------|--|---|
| ◎ | ①自然エネルギーの活用 【共通】 | <p>【b評価】 自然エネルギーの活用について、令和3年度計画どおり「導入可能性検討」を実施した。</p> <p>また、再生可能エネルギー利用率は、令和3年度計画「0.16%」に対し「0.14%」の実績で、達成率は87.5%となった。次に温室効果ガス排出低減量は、令和3年度計画値「103t」に対し、「72t」の実績で、達成率は69.9%となった。2つの成果指標を勘案し、「b」評価とした。</p> | <p>【b評価】 自然エネルギーの活用について、計画をやや下回っている。</p> <p>修繕には長期間を要することから、令和4年度の目標達成に向けて、懸念が残る。</p> <p>また、今後の導入に際しては、費用対効果を踏まえて検討を行うよう努めること。</p> <p>【評価に付随した意見】 自然エネルギーは天候等の影響に左右されやすいため、計画値どおりにならないのはある程度やむを得ない。</p> |
| ◎ | ②省エネルギー対策 【共通】 | <p>【c評価】 上下水道局庁舎等で使用するエネルギー量（以下、庁舎等使用エネルギー）は令和3年度計画「213kℓ」に対し、「204kℓ」の実績であった。庁舎内の昼休みや定時後不要箇所の消灯を実施した。庁舎内の照明器具はLED照明を採用している。</p> <p>「飲料水の年間生産に必要なエネルギー量（以下、飲料水生産エネルギー）は令和3年度計画「8,078kℓ」に対し、「8,311kℓ」の実績であった。具体的な取組として、取水・送水ポンプ等の効率的な運用に努めた。下水の年間処理に必要なエネルギー量（以下、下水処理エネルギー）は令和3年度計画「12,869kℓ」に対し、「12,781kℓ」の実績であった。下水処理エネルギーでは、燃料化施設の運転や省エネ機器の導入を実施した。</p> <p>また、二酸化炭素排出低減量（平成29年度比）は、3事業合計で令和3年度計画「214.8t」に対し、「-141.0t」の実績で、目標達成に向けて、成果が出ていないため「c」評価とした。</p> | <p>【c評価】 省エネルギー対策について、計画を大きく下回っている。</p> <p>省エネルギーに努める必要はあるものの、上下水道事業の性質上、これ以上の大幅な削減は難しいことは理解できる。</p> <p>しかし、公営企業の責任として、改善可能な箇所については、引き続き検討・実施するよう努めること。</p> |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | | |
|------------------------------|---------------------------------|------|----------------------------|-------|------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------|
| ◎ | ①自然エネルギーの活用 | 活動指標 | 自然エネルギーの活用 | 計画値 | 20kW [小水力] | 導入可能性 検討 | 導入可能性 検討 | 発電設備導入 方針決定 | |
| | | | | 実績値 | 20kW [小水力] | 導入可能性 検討 | 導入可能性 検討 | | |
| | | 成果指標 | 再生可能エネルギー利用率 | 計画値 | 0.16% | 0.16% | 0.16% | 0.16% | |
| | | | | 実績値 | 0.16% | 0.16% | 0.14% | | |
| | | | 温室効果ガス排出低減量 (t-CO2/年換算) | 計画値 | 103t | 103t | 103t | 103t | |
| | | | | 実績値 | 76t | 85t | 72t | | |
| | | 達成率 | | | | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | |
| | | 自己評価 | | | | b | b | b | |
| | | 外部評価 | | | | b | b | b | |
| | | ◎ | ②省エネルギー対策 | 活動指標 | 上下水道局庁舎等で使用するエネルギー (原油換算) | 計画値 | 213kℓ | 213kℓ | 213kℓ |
| 実績値 | 205kℓ | | | | | 212kℓ | 204kℓ | | |
| 飲料水の年間生産に必要なエネルギー量 (原油換算) | 計画値 | | | | 8,094kℓ | 8,086kℓ | 8,078kℓ | 8,070kℓ | |
| | 実績値 | | | | 8,360kℓ | 8,318kℓ | 8,311kℓ | | |
| 下水の年間処理に必要なエネルギー量 (原油換算) | 計画値 | | | | 12,893kℓ | 12,881kℓ | 12,869kℓ | 12,857kℓ | |
| | 実績値 | | | | 12,638kℓ | 12,667kℓ | 12,770kℓ | | |
| 成果指標 | 二酸化炭素排出低減量 平成29年度比 (総排出量) | | | 計画値 | 110.0 t (55,522.8t) | 162.4 t (55,470.4t) | 214.8 t (55,418.0t) | 267.1 t (55,365.7t) | |
| | | | | 実績値 | 102.1t (55,530.7t) | 117.6 t (55,515.2t) | -112.2 t (55,745.4t) | | |
| 達成率 | | | | 92.8% | 72.4% | 目標達成に向けて、成果が出ていない | | | |
| 自己評価 | | | | a | b | c | | | |
| 外部評価 | | | | a | b | c | | | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|-------------|---|
| ①自然エネルギーの活用 | <p>南安倍配水場の太陽光発電設備の故障は、半導体不足等の影響により年度内修繕の目途が立たず、令和4年12月末に修繕を完了予定、その後発電を再開する見込み。</p> <p>西奈配水場の電動弁の不具合は令和4年6月に修繕を完了し、小水力発電事業者との調整を行い、発電を再開する見込み。</p> |
| ②省エネルギー対策 | <p>●飲料水生産エネルギー</p> <p>安定給水の確保をしつつ、取水・導水・浄水及び配水過程における各施設の設備の能力、運転時間、電力使用量等の確認を行い、施設の運用や設備の運転・操作を工夫することで温室効果ガス排出量削減につながる効率の良い施設運用を行っていく。</p> |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|---|
| 自己 評価 | C | <p>温暖化対策について、令和元年度、2年度ともに「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち「自然エネルギーの活用」は令和2年度までの「b」評価となった原因は改善したものの、機器の故障等により、引き続き計画を下回る実施となった。</p> <p>また、もう1つの事務事業である「省エネルギー対策」については、令和2年度に行った水道の施設運用変更による電力使用量増加に伴い、二酸化炭素排出を削減する計画に対して増加となり、目標を顕著に下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的について、達成されていないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「C」評価とした。</p> |
|----------|---|---|

| | | |
|----------|---|--|
| 外部 評価 | C | <p>温暖化対策について、令和元年度、2年度ともに「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち、1つの事務事業で計画を下回り、1つの事務事業が計画を大きく下回る成果となった。</p> <p>以上のことから自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図る施策の目的が達成されていないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「C」評価とした。</p> <p>なお、機器の故障が原因で計画値を下回ったことはやむを得ないため、「B」とする評価もあった。</p> |
|----------|---|--|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1～3) | <p>温暖化対策は、問題が発生した当初から課題解決に取り組んだものの、外的要因や新たな問題の発生などにより計画どおりの実施とはならなかった。</p> |
| 課題点 | <p>令和2年10月に政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指すこととなり、本市においても2050年実質ゼロに向けて取り組んでいくことを表明している。</p> <p>しかし、上下水道事業の性質上、大量の電力消費は避けられないことや、限られた財源の中で温暖化対策に係る投資が耐震対策や老朽化対策などの他事業の投資を圧迫することなどを踏まえ、取組を検討しなければならないことから、全国的な動向や投資と財源の見通しを注視した慎重な対応が求められる。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光、小水力など、現在考えられる温暖化対策に取り組んでいる点は評価できません。 ・ 天候が影響するなど自然エネルギーは計画どおりにならない中工夫を重ねている点は評価します。 |
|------------|--|

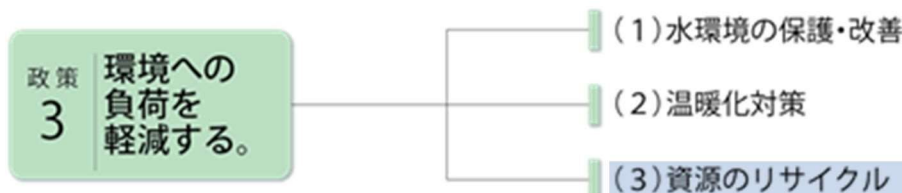
| | |
|--------|---|
| 改善すべき点 | ・器機の故障は不可抗力ではありますが、早く修理修繕を行い、おおいに自然エネルギーを活用してほしいです。 |
|--------|---|

■今後の方向性

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <p>温暖化対策については、脱炭素社会の実現に向けて、本市では「2030年度に50%以上（2013年度比）の温室効果ガス削減」や、「2050年に温室効果ガス排出実質ゼロの実現」を目指していくことから、コストを慎重に見極めながら、実施可能な取組を設定し、市全体の目標達成に向けて実施していく。</p> <p>また、技術の進歩が著しいことを踏まえ、計画策定時に各年度の目標値を設定し、実績値により定量的な評価を行う従来の方法から、事業の目的に基づき実施した取組を協議会で報告し、新たな発想や協議会からの意見を次年度以降の取組に反映させる方法に見直しを図る。</p> |
|--------|--|

| | | |
|-----|---|-----------------|
| 施策名 | 3-（3） | 資源のリサイクル |
| 目的 | この施策は、「リサイクル率の向上」の事務事業により、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、炭化炉の整備により燃料化を進め、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指すものである。 | |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------|--|--------------------|
| ◎ | ①リサイクル率の向上 【共通】 | <p>【a評価】 リサイクル率の向上について、清水地区の汚泥集約化事業を令和元年度に完了し、令和2年度に供用開始した。 具体的な取組として、有効利用先調査及び汚泥リサイクル計画の見直しを実施した。 また、下水汚泥リサイクル率は計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | |
|------|------------|------|--------------|-------|--------|-------|-------|---|
| ◎ | ①リサイクル率の向上 | 活動指標 | 清水地区の汚泥集約化事業 | 計画値 | 完了 | — | — | |
| | | | | 実績値 | 完了 | — | — | |
| | | 成果指標 | 下水汚泥リサイクル率 | 計画値 | 94.0% | 100% | — | — |
| | | | | 実績値 | 95.4% | 100% | 100% | — |
| | | 達成率 | | | 101.5% | 100% | 100% | — |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | — |
| 外部評価 | | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|---|
| 自己 評価 | A | <p>資源のリサイクルについて、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても、施策を構成する事務事業「リサイクル率の向上」は、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的が達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|----------|---|---|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | <p>資源のリサイクルについて、清水地区の汚泥集約化事業を令和1年度に完了し、2年度に供用開始するとともに、下水汚泥の有効利用先調査及びリサイクル計画の見直しを実施し、下水汚泥リサイクル率 100%を達成した。</p> <p>以上により、資源のリサイクルに係る事業は完了した。</p> |
| 課題点 | <p>下水汚泥リサイクル率 100%を維持するためには、有効利用先の確保が重要である。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

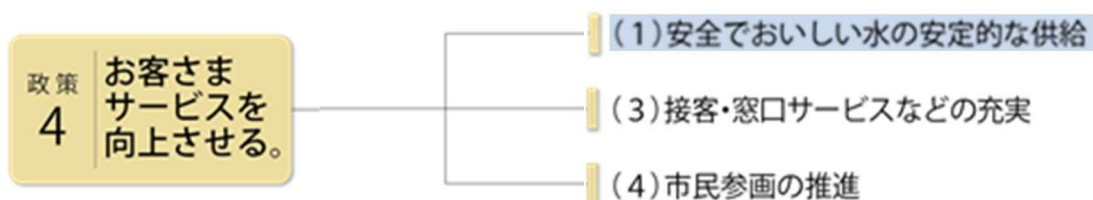
| | |
|------------|----|
| 評価 できる点 | なし |
| 改善 すべき点 | なし |

■ 今後の方向性

| | |
|------------|---|
| 今後の 方向性 | <p>資源のリサイクルについて、下水汚泥リサイクル率の 100%が達成できたことから、資源のリサイクルに係る事業は完了となる。</p> |
|------------|---|

| | | |
|-----|--|------------------------|
| 施策名 | 4-（1） | 安全でおいしい水の安定的な供給 |
| 目的 | この施策は、「水道管の整備・充実」、「水道施設の整備・充実」、「直結給水サービスの拡大」、「水質管理・監視の充実」及び「鉛製給水管の更新」の5つの事務事業により、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指すものである。 | |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------------|---|--|
| ◎ | ① 水道管の整備・充実 【水道】 | <p>【b評価】 水道管の整備・充実について、令和3年度計画「2.7 km」に対し、「2.0 km」の実施した。 具体的な取組として、送水管、配水支管の新設調査・設計・工事を実施した。 成果指標である管路の新設率は令和3年度計画「0.10%」に対し、「0.08%」の実績で、達成率は 80.0%となったことから、「b」評価とした。</p> | <p>【b評価】 水道管の整備・充実について、計画をやや下回っている。 塗料メーカーによる水道管塗料の不適切行為が遅延要因だが、不測の事態に備え、余裕を持った計画の設定や可能であれば複数の資材調達先の確保など、緊張感を持って業務に取り組むように努めること。 なお、影響を受けた工事を分母から除いて、計画通りの進捗と考えてよいとして、「a」とする評価もあった。</p> |
| ◎ | ② 水道施設の整備・充実 【水道】 | <p>【a評価】 水道施設の整備・充実について、令和3年度計画どおり「ポンプ棟建設及び、電気、機械、滅菌設備設置」を実施した。 足久保配水場場内外構などの一部工事については、令和4年度の完成となるが、ポンプ棟、配水池などの主たる工事は完成しており、同年度に供用開始ができる状態となっている。 令和4年度の足久保配水場供用開始まで、成果指標である「未整備地区人口」及び「整備された地区の人口比」に変化がないが、目標達成に向けて、計画どおり活動ができているため、「a」評価とした。</p> | / |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|----------------------|---|--------------------|
| ◎ | ③直結給水サービスの拡大 【水道】 | <p>【a評価】</p> <p>直結給水サービスの拡大について、対象の拡大を令和3年度計画どおり「実施可能な地域の拡大検討」を実施した。次に直結給水のPR回数を令和3年度計画どおり「5回」実施した。</p> <p>具体的な取組として、水運用計画に合わせて対象地域の拡大検討、配水圧力調査、モデル施設の検証、直結給水に係る講習会においてPRを実施した。</p> <p>また、中高層建築物等直結給水率は令和3年度計画「80%以上」に対し、「83.87%」の実績で、達成率は104.8%となったため「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ④水質管理・監視の充実 【水道】 | <p>【a評価】</p> <p>水質管理・監視の充実について、水質監視装置の更新を新規設置1台、更新3台の「計4台」を令和3年度計画どおり実施した。</p> <p>具体的な取組として、水安全計画においては、紫外線照射施設の運用を計画どおり開始し、さらに、令和3年度は4浄水場（蒲原第1浄水場、蒲原第2浄水場、由比第1浄水場及び由比第2浄水場）について水安全計画の各編を策定した。</p> <p>令和3年度水質検査計画に従って水質検査を実施し、全ての地点で水質基準値を満たした良好な水質であることを確認した。</p> <p>水道GLPにおいては、水道GLP認定事務局による水道GLPの更新審査が実施され、適正に運用されているという評価を受けた。水道GLPの認定を維持することで精度の高い検査体制の確保を図る。</p> <p>水質検査機器の保守点検と更新を計画どおり実施し、検査及び監視体制の精度を確保した。</p> <p>平均残留塩素濃度は令和3年度計画「0.4 mg/L以下」に対し、「0.29 mg/L」の実績で、目的達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ⑤鉛製給水管の更新 【水道】 | <p>【a評価】</p> <p>鉛製給水管の更新について、令和3年度計画「3,800箇所」に対し、「3,811箇所」を実施した。</p> <p>また、鉛製給水管率は令和3年度計画「9.0%」に対し、「8.6%」の実績で、達成率は104.7%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|------------|---|
| ①水道管の整備・充実 | 不測の事態が発生した場合でも、工事が年度内に完成するように、完成日に余裕を持たせた発注計画とする。 |
|------------|---|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|---------------|----------------------------|------|-----------------|--------|---------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|---------------------------|----------------------|
| ◎ | ①水道管の整備・充実 | 活動指標 | 水道管整備 | 計画値 | 3.8 km | 5.0 km | 2.7 km | 1.3 km | |
| | | | | 実績値 | 3.8 km | 4.7km | 2.0km | | |
| | | 成果指標 | 管路の新設率 | 計画値 | 0.15% | 0.19% | 0.10% | 0.05% | |
| | | | | 実績値 | 0.15% | 0.18% | 0.08% | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 94.7% | 80.0% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | b | |
| | | 外部評価 | | | | | | b | |
| ◎ | ②水道施設の整備・充実 | 活動指標 | 水道施設整備 | 計画値 | 足久保配水場 築造 | 足久保配水場 築造 | 足久保配水場 完成 | 足久保配水場 供用開始 | |
| | | | | 実績値 | 仮設の配管・ ポンプ設置 既設の高架水槽・ ポンプ棟撤去 | 配水池及び流 量計室等の築 造 | ポンプ棟及び、 電気・機械 ・滅菌設備完成 | | |
| | | 成果指標 | 未整備地区 人口 | 計画値 | 約 1,600 人 | 約 1,600 人 | 約 1,600 人 | 約 1,000 人 | |
| | | | | 実績値 | 約 1,600 人 | 約 1,600 人 | 約 1,600 人 | | |
| | | | 整備された 地区の人口比 | 計画値 | 0% | 0% | 0% | 37.5% | |
| | | | | 実績値 | 0% | 0% | 0% | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成 果が出ている | 計画どおり成 果が出ている | 計画どおり成 果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |
| | | ◎ | ③直結給水サービスの拡大 | 活動指標 | 対象の拡大 | 計画値 | 中高層建築物 直結給水認可 (5階まで) | 直列多段 増圧給水認可 (10階程度) | 実施可能な 地域の拡大 検討 |
| 実績値 | 中高層建築物 直結給水認可 (5階まで) | | | | | 直列多段 増圧給水認可 (10階程度) | 実施可能な 地域の拡大 検討 | | |
| 直結給水の PR回数 | 計画値 | | | 5回 | 5回 | 5回 | 5回 | | |
| | 実績値 | | | 5回 | 5回 | 5回 | | | |
| 成果指標 | 中高層 建築物等 直結給水率 | | | 計画値 | 70%以上 | 70%以上 | 80%以上 | 80%以上 | |
| | | | | 実績値 | 73.14% | 80.99% | 83.87% | | |
| 達成率 | | | | 104.5% | 115.7% | 104.8% | | | |
| 自己評価 | | | | a | s | a | | | |
| 外部評価 | | | | | | | | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|----|-------------|------|-------------|-------|-------------|--------------|--------------|--------------|--|
| ◎ | ④水質管理・監視の充実 | 活動指標 | 水質監視装置の更新台数 | 計画値 | 4 台 | 4 台 | 4 台 | | |
| | | | | 実績値 | 4 台 | 4 台 | 4 台 | | |
| | | 成果指標 | 残留塩素濃度 | 計画値 | 0.4 mg/L 以下 | 0.4 mg/L 以下 | 0.4 mg/L 以下 | 0.4 mg/L 以下 | |
| | | | | 実績値 | 0.29 mg/L | 0.29 mg/L | 0.29 mg/L | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |
| ◎ | ⑤鉛製給水管の更新 | 活動指標 | 鉛製給水管の更新 | 計画値 | 3,700 箇所 | 3,800 箇所 | 3,800 箇所 | | |
| | | | | 実績値 | 3,741 箇所 | 3,804 箇所 | 3,811 箇所 | | |
| | | 成果指標 | 鉛製給水管率 | 計画値 | 11.6% | 10.3% | 9.0% | 7.7% | |
| | | | | 実績値 | 11.1% | 9.9% | 8.6% | | |
| | | 達成率 | | | | 104.5% | 104.0% | 104.7% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | A | <p>安全でおいしい水の安定的な供給について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち4つの事務事業が計画どおりの実施となり、令和2年度に引き続き成果が出ている。</p> <p>また、「水道管の整備・充実」の事務事業は、令和2年度は計画どおりの実施であったが、令和3年度は令和4年1月の日本水道協会から配管材料の使用中止の通知（外的要因）を受け、一部の工事で3月末の完成はできなかったものの4月末には完成した。</p> <p>以上のことから、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|---|

| | | |
|------|---|--|
| 外部評価 | A | <p>安全でおいしい水の安定的な供給について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち4つの事務事業が計画どおり、1つの事務事業は、計画をやや下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応するという施策の目的がおおむね達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|--|

■次期計画に向けて (上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1~3) | 安全でおいしい水の安定的な供給について、令和3年度に外的要因により、一部の工事で進捗が遅れが出たものの、影響を最小限に留め、おおむね計画どおりに実施した。 |
| 課題点 | <p>今ある施設を持続可能に運用し、安全でおいしい水道水を安定的に供給するため、水道管・水道施設の新たな整備については、経済性や負担の公平性、市民生活への影響を総合的に踏まえ、必要性を検討する必要がある。</p> <p>また、水道水の品質管理についても日常的な監理だけでなく、有事を想定した水安全計画を踏まえ、総合的に取り組む必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

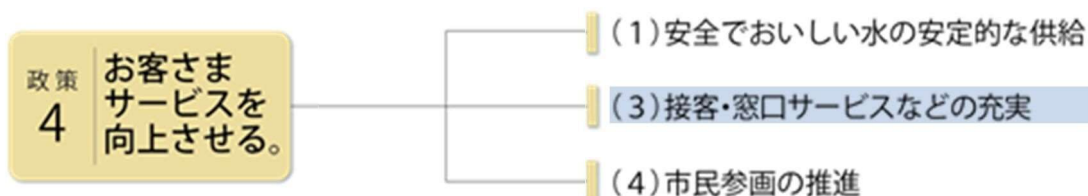
| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・直接給水サービスが拡大し、中高層建築物などの直接給水率が83.87%という実績は評価できます。「水道管の整備・充実」についても令和4年3月末には完成できなかったものの、4月末には完成とのことで、評価できると思います。 ・安定給水に向けた取組が計画どおり進捗していることを評価します。 ・直結給水サービスの拡大により中高層建築物等直結給水率の達成率が104.8%となったことを評価します。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・外的要因で工事遅延を起こさないために、今後も完成日に余裕を持たせた発注計画を立ててください。 ・鉛製給水管は、微量ではあるが溶出することが懸念され、水質調査により水質基準を満たし水道水の利用に問題ないということですが、鉛製給水管率を速やかに更新してほしいです。 |

■今後の方向性

| | |
|------------|---|
| 今後の 方向性 | <p>安全でおいしい水の安定的な供給について、水質管理・監視の充実や鉛製給水管の更新など、今後も実施すべきものは適正な進行管理に努める。</p> <p>また、水道事業は新設事業が一定程度完了し、維持管理の時代に本格的に移行したことを踏まえ、構成する事務事業の位置づけや、他の事務事業との関係性を見直し、効果的な事業実施を図る。</p> |
|------------|---|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 4-(3) 接客・窓口サービスなどの充実 |
| 目的 | この施策は、「料金支払いの利便性の向上」、「サービス体制の再構築」及び「地域貢献」の3つの事務事業により、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|--|--------------------|
| ◎ | ①料金支払いの利便性の向上 【共通】 | <p>【a評価】 料金支払いの利便性の向上について、多様化する納付方法及び請求方法等の検討を令和3年度計画「新たな納付方法、請求方法等の導入・検討」に対し、「令和6年10月以降のクレジットカードによる決済の導入決定」を実施した。これは料金システムを更新するタイミングに併せて、新たな納付方法としてクレジットカード決済を導入していくものである。 また、水道料金収納率（現年度・5月末）は令和3年度計画「99.16%」に対し「99.10%」の実績で、達成率は99.9%、下水道使用料収納率（現年度・5月末）は令和3年度計画「99.10%」に対し「99.11%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、おおよそ計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | / |
| ◎ | ②サービス体制の再構築 【共通】 | <p>【a評価】 サービス体制の再構築について、R3計画どおり「継続実施、導入計画検討」を実施した。 また、水道料金収納率（現年度・5月末）は令和3年度計画「99.16%」に対し「99.10%」の実績で、達成率は99.9%、下水道使用料収納率（現年度・5月末）は令和3年度計画「99.10%」</p> | / |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|---|--|
| | | <p>に対し「99.11%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、おおよそ計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |
| | <p>③地域貢献 【共通】</p> | <p>【c評価】 地域貢献について、地域貢献活動回数を令和3年度計画「20回以上」に対し、「12回」実施した。 具体的な取組として、①高齢者等見守り支援1回 ②庁舎周辺美化活動4回 ③上下水道フェア（市HP代替企画）1回 ④水道・下水道施設見学会6回の計12回を実施した。 また、地域貢献参加職員数は令和3年度計画「1,000人以上」に対し、「660人」の実績となった。 前年度より続くコロナ禍において、多くの対面の事業が実施できず、上下水道フェアも、当初上下水道局庁舎を会場に地元七間町名店街とも連携した取組も進めていたが、感染症拡大防止のため直前で中止となった。しかしながら、上下水道フェアについては急遽市HPを活用したオンラインの代替企画「おうちで上下水道フェア」を開催し、少しでも当初の計画を形にするよう対応することができた。また、感染拡大状況を見据え実施可能な活動をタイミングよく実施（美化活動（令和2年度：1回→令和3年度：4回）するとともに、感染対策を徹底し対応可能な活動（施設見学（令和2年度：5回→令和3年度：6回））を取入れるなど、活動の見直しも図ったが、ライフライン事業者として事業の安定運営を守るため、参加職員数を制限するなど対策を徹底したことなどから、目標には届かず達成率は、66.0%となったため、「c」評価とした。</p> | <p>【c評価】 地域貢献について、計画を大きく下回っている。 コロナ禍も3年目に入り、社会活動の中でもオンラインの取組がかなり増えている。地域貢献活動から、上下水道事業を知る機会に繋がることから、今までと同様の取組でなく、新たな地域貢献活動を生み出し、市民との信頼関係の構築に努めること。 なお、前年度より実績が向上したことや、コロナ禍での地域貢献活動の実施について、計画を達成できないのは致し方ないこととして、「b」とする評価もあった。</p> <p>【評価に付随した意見】 本事務事業の各指標として設定している「地域貢献の活動回数」と「その参加職員数」で評価をすることが適切であるか検討する必要がある。</p> |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|--------------|---|
| <p>③地域貢献</p> | <p>コロナ禍であることを踏まえ、事業の安定運営に考慮し、活動時期や感染拡大防止対策の徹底を行うとともに、非接触型の開催方法など工夫に努める。</p> |
|--------------|---|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | |
|------|------------------------|------|------------------------|--------------|------------------------------|----------------------------|------------------------------|----------------|
| ◎ | ①料金支払いの利便性の向上 | 活動指標 | 多様化する納付方法及び請求方法等の検討 | 計画値 | 新たな納付方法、請求方法等の導入決定 | 新たな納付方法、請求方法等の導入 | 新たな納付方法、請求方法等の導入・検討 | |
| | | | | 実績値 | 令和2年度中の電子マネー等による納付書納付方法の導入決定 | 令和2年6月から順次新たな納付方法、請求方法等を導入 | 令和6年10月以降のクレジットカードによる決済の導入決定 | |
| | | 成果指標 | 水道料金収納率 (現年度・5月末) | 計画値 | 99.06% | 99.11% | 99.16% | 99.21% |
| | | | | 実績値 | 98.98% | 99.02% | 99.10% | |
| | | | 下水道使用料収納率 (現年度・5月末) | 計画値 | 99.00% | 99.05% | 99.10% | 99.15% |
| | | | | 実績値 | 98.96% | 99.06% | 99.11% | |
| | | 達成率 | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | | |
| | | 自己評価 | | a | a | a | | |
| | | 外部評価 | | | | | | |
| | | ◎ | ②サービス体制の再構築 | 活動指標 | サービス体制の再構築 | 計画値 | 継続実施 | 次期包括業務委託・工程表策定 |
| 実績値 | 次期包括業務委託契約 | | | | | 次期包括業務委託・工程表策定 | 継続実施 導入計画検討 | |
| 成果指標 | 水道料金収納率 (現年度・5月末) | | | 計画値 | 99.06% | 99.11% | 99.16% | 99.21% |
| | | | | 実績値 | 98.98% | 99.02% | 99.10% | |
| | 下水道使用料収納率 (現年度・5月末) | | | 計画値 | 99.00% | 99.05% | 99.10% | 99.15% |
| | | | | 実績値 | 98.96% | 99.06% | 99.11% | |
| 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | | |
| 自己評価 | | | | a | a | a | | |
| 外部評価 | | | | | | | | |
| | ③地域貢献 | | | 活動指標 | 地域貢献活動回数 | 計画値 | 20回以上 | 20回以上 |
| | | 実績値 | 20回 | | | 9回 | 12回 | |
| | | 成果指標 | 地域貢献参加職員数 (延べ) | 計画値 | 1,000人以上 | 1,000人以上 | 1,000人以上 | |
| | | | | 実績値 | 903人 | 379人 | 660人 | |
| | | 達成率 | | 90.3% | 37.9% | 66.0% | | |
| | | 自己評価 | | a | c | c | | |
| | | 外部評価 | | | c | c | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|--|
| 自己 評価 | B | <p>接客・窓口サービスなどの充実について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち2つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「地域貢献」の事務事業は、一部事業内容の変更により、実施回数や参加職員数に改善が見られたが、令和2年度に引き続き令和3年度計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的について一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

| | | |
|----------|---|---|
| 外部 評価 | B | <p>接客・窓口サービスなどの充実について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>接客・窓口サービスなどの充実について、施策を構成する3つの事務事業のうち、2つの事務事業が計画どおり、1つの事務事業が計画を下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、多様化・高度化するお客様ニーズを的確に把握し、迅速に対応する施策の目的が達成されているとはいえないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|----------|---|---|

■ 次期計画に向けて

(上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1～3) | <p>コロナ禍により一部事業が実施できなかったが、大きく変化するお客さまニーズに応えるため、キャッシュレス決済を導入し、更なる次世代型サービスの導入検討を行った。</p> |
| 課題点 | <p>コロナ禍による社会構造の変化により、非接触型のサービスなど新たなニーズが求められているなかで、コスト・効果をふまえ、新たな取組を検討する必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

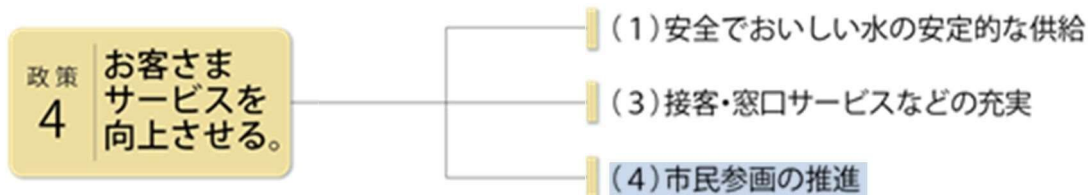
| | |
|------------|---|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年目に入ったコロナ禍でも地域貢献活動回数や、参加職員数を見るとそれなりに頑張っていると感じます。上下水道フェアも急きょオンラインの企画に切り替えて少しでも形にしようとした努力は評価できると思います。 ・多様な支払い方法が可能となるよう取り組んでいることが評価できます。 ・コロナ禍の時代の変化に合わせ、キャッシュレス決済を導入し、市民の料金支払いの利便性を高めたことが評価できます。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・このコロナ禍で、地域貢献活動の回数や参加職員数という指標が意味を持つのか疑問です。活動方法を再度検討すべきと考えます。 ・開かれた上下水道局のイメージを広めるフレンドリーな地域貢献を目指してほしいです。 |

■ 今後の方向性

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <p>接客・窓口サービスなどの充実について、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、対応することで、お客さまサービスの向上を目指す。</p> <p>また、コロナ禍による社会構造の変化に伴うDXの推進については、コストや効果を検証しながら、導入を検討していく。</p> <p>さらに、構成する事務事業のうち、「地域貢献の参加職員数」といった指標のように定量的な評価基準による評価・検証・改善が適さないものについては、事業の目的に基づき実施した取組を協議会で報告し、新たな発想や協議会からの意見を次年度以降の取組に反映させる方法に見直しを図る。</p> |
|--------|--|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 4-(4) 市民参画の推進 |
| 目的 | この施策は、「静岡市上下水道事業経営協議会の開催」、「協働事業の検討・実施」、「積極的な広報活動」及び「広聴機能の充実」の4つの事務事業により、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|----------------------------|---|--|
| ◎ | ①静岡市上下水道事業経営協議会の開催 【共通】 | <p>【a評価】 静岡市上下水道事業経営協議会の開催について、令和3年度計画どおり「5回」実施した。 具体的な取組として、行政評価の実施や、上下水道施設見学等を実施した。 また、意見書、報告書等の提出回数は、令和3年度計画どおり「1回」の実績で、達成率は100%となった。次に行政評価への対応率は、令和3年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p> | / |
| | ②協働事業の検討・実施 【共通】 | <p>【c評価】 協働事業の検討・実施について、協働事業の件数（各種事業に協力した団体数）を令和3年度計画「10件」に対し、「8件」実施した。 具体的な取組として、新型コロナ感染拡大により中止となった上下水道フェアは代替企画「おうちで上下水道フェア」として市HP上でオンラインで実施するとともに、水道週間で特別講座を実施するなど、市民等との協働事業を行った。 また、イベント等来客数について、特に上下水道フェアは、初めて上下水道局庁舎を会場として、地元七間町名店街とも連携をしながら準備を進めていたが、開催直前にコロナ禍で中止となった。しかし当初の計画を形にできるよう、市HPを活用したオンラインの代替企画を</p> | <p>【c評価】 協働事業の検討・実施について、計画を大きく下回っている。 コロナ禍を踏まえると、今まで市民と直接関わって実施していた事業への影響は避けられない。そこで、リアルとオンラインのハイブリット型のイベントなど、新たな取組を検討・挑戦していくことも必要である。 なお、コロナ禍という外的要因のため、計画を達成できないのは致し方ないこととして、「b」とする評価もあった。</p> <p>【評価に付随した意見】 「政策4施策(3)③地域貢献」と同様に、活動指標や成果指標の数値目標だけでなく、コロナ禍においては実施内容を重視し評価することも一案かと考える。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|---|--------------------|
| | | 進めるとともに、チラシ作成、報道への投げ込みや市公式 SNS の活用など短期間ではあるが可能な限りの広報に努め代替企画の周知に努めた。結果として令和3年度計画「5,000人」に対し、オンラインでの代替企画「おうちで上下水道フェア」へのアクセス数 1,006 回を含めて「1,706人」となり、達成率は 34.1% となったため、「c」評価とした。 | |
| ◎ | ③積極的な 広報活動 【共通】 | <p>【a評価】 積極的な広報活動について、広報関連イベントの展開数を令和3年度計画「120回」に対し、「54回」実施した。SNS等への掲載回数は、令和3年度計画「12回」に対し、「11回」実施した。具体的な取組として、水道週間に静鉄バスポスター掲示や水の週間に「おうちで上下水道フェア」等を実施した。また、メディア露出度は令和3年度計画「10回」に対し、「9回」の実績で、達成率 90%となったため、「a」評価とした。</p> | |
| | ④広聴機能 の充実 【共通】 | <p>【a評価】 広聴機能の充実について、広聴活動を令和3年度計画「30回以上」に対し、「56回」実施した。具体的な取組として、市政出前講座や上下水道モニター、イベント等でのアンケート調査等を実施した。また、上下水道事業に対する市民理解度は令和3年度計画「80%以上」に対し、「81.4%」の実績で、達成率 101.8%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|-----------------|---|
| ②協働事業の 検討・実施 | コロナ禍であることを踏まえ、非接触型の活動等を行うなど実施方法の工夫や活動の周知に努める。 |
|-----------------|---|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|------|--------------------|------|---------------|--------|---------------|--------------|---------------|--------------|-----|
| ◎ | ①静岡市上下水道事業経営協議会の開催 | 活動指標 | 協議会の開催回数 | 計画値 | 5回 | 4回 | 5回 | 6回 | |
| | | | | 実績値 | 5回 | 4回 | 5回 | | |
| | | 成果指標 | 意見書、報告書等の提出回数 | 計画値 | 2回 | 2回 | 1回 | 3回 | |
| | | | | 実績値 | 2回 | 2回 | 1回 | | |
| | | | 行政評価*への対応率 | 計画値 | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| | | | | 実績値 | 100% | 100% | 100% | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |
| | | ◎ | ②協働事業の検討・実施 | 活動指標 | 協働事業の件数 | 計画値 | 9件 | 10件 | 10件 |
| 実績値 | 12件 | | | | | 8件 | 8件 | | |
| 成果指標 | イベント等来客数 | | | 計画値 | 5,000人 | 5,000人 | 5,000人 | 5,000人 | |
| | | | | 実績値 | 5,005人 | 9,746人 | 1,706人 | | |
| 達成率 | | | | 100.1% | 計画どおりの成果が出ている | 34.1% | | | |
| 自己評価 | | | | a | a | c | | | |
| 外部評価 | | | | | | c | | | |
| ◎ | ③積極的な広報活動 | 活動指標 | 広報関連イベントの展開回数 | 計画値 | 120回 | 120回 | 120回 | 120回 | |
| | | | | 実績値 | 130回 | 47回 | 54回 | | |
| | | | SNS等への掲載回数 | 計画値 | | | 12回 | 12回 | |
| | | | | 実績値 | | | 11回 | | |
| | | 成果指標 | ホームページの掲載回数 | 計画値 | 10回 | 10回 | | | |
| | | | | 実績値 | 10回 | 28回 | | | |
| | | | メディア露出度 | 計画値 | | | 10回 | 10回 | |
| | | | | 実績値 | | | 9回 | | |
| | | 達成率 | | | | 100% | 計画どおりの成果が出ている | 90.0% | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|----------|-------|-----------------|-----|-------|--------|--------|-------|
| ④広聴機能の充実 | 活動指標 | 広聴活動 | 計画値 | 30回以上 | 30回以上 | 30回以上 | 30回以上 |
| | | | 実績値 | 48回 | 52回 | 56回 | |
| | 成果指標 | 上下水道事業に対する市民理解度 | 計画値 | 80%以上 | 80%以上 | 80%以上 | 80%以上 |
| | | | 実績値 | 76.5% | 80.1% | 81.4% | |
| | 達成率 | | | 95.6% | 100.1% | 101.8% | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | B | <p>市民参画の推進について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、3つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「②協働事業の検討・実施」の事務事業は、令和2年度までは計画どおりの実施であったものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染急拡大を受け、上下水道フェアの開催方法を直前で変更し、チラシ配布や市HP・SNSを活用した広報を行ったものの周知期間が十分とれなかったこともあり、計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえるよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すという施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|------|---|---|

| | | |
|------|---|--|
| 外部評価 | B | <p>市民参画の推進について、令和元年度、令和2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、3つの事務事業は計画どおり、1つの事務事業は計画を大きく下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえるよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すという施策の目的について、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|------|---|--|

■次期計画に向けて (上下水道局)

| | |
|-----------------|---|
| 実施した点 (R1~3) | コロナ禍により、一部事業が実施できなかったものの、上下水道フェアをオンラインで実施するなど、非接触型や感染対策を徹底した活動を検討・実施した。 |
| 課題点 | <p>各事業の事務事業評価において、協議会委員より「数値目標による評価が適さない」などの意見があったことから、実施した事業を適正に評価できるような方法を検討する必要がある。</p> <p>また、今後もさまざまな手法・アイデアを用いるなど、コロナ禍など社会情勢を見据えた広報活動の実施に努めつつ、積極的にお客さまからの意見をいただく機会を設け、上下水道事業のサービスの向上に反映させていく必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|------------|---|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、できることをやろうという考えで、SNSを活用した広報など工夫を凝らしたことは評価に値します。 ・事業の認知度や理解度を調査する広聴活動を多数実施し、その結果も良好であることを評価します。上下水道事業の運営には住民の理解が不可欠なため、住民との双方向コミュニケーションを続けてください。 ・コロナ禍においても、オンライン会議を導入するなどやり方を工夫し協議会を全会実施したことが評価に値します。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での事業の実施を適正に評価できる方法を検討すべきです。これまでと同じようには評価ができないと思います。 ・今後もコロナ感染拡大を繰り返すことが予想されるので、オンラインイベントなど非接触型の活動も検討して欲しいです。 ・コロナ禍の影響での計画変更はやむを得ないことであるが、これからは、プランA、プランBといった複数の可能性を想定した企画が必要だと思います。 |

■今後の方向性

| | |
|------------|--|
| 今後の 方向性 | <p>市民参画の推進については、事業に対する市民の理解を深めるためにも重要なことから、引き続き、社会情勢の変化を的確にとらえた対応により事業を推進していく。</p> <p>さらに、構成する事務事業は、「協働事業によるイベント等来客数」といった指標のように、これまでの定量的な評価基準による評価・検証・改善が適さないものがあることから、事業の目的に基づき実施した取組を協議会で報告し、新たな発想や協議会からの意見を次年度以降の取組に反映させる方法に見直しを図る。</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 5 - (1) 業務の効率化 |
| 目的 | この施策は、「機能的な組織づくり」、「上下水道の資産・資源の有効活用」及び「マッピングシステムの運用拡大」の3つの事務事業により、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|---------------------------|--|--------------------|
| | ① 機能的な組織づくり 【共通】 | <p>【a評価】 機能的な組織づくりについて、適正な人員配置を令和3年度計画どおり「実施・検証」した。 具体的な取組として、水道部・下水道部において、次期中期経営計画の作成に向けて、令和5年度以降の組織・業務の再編のありかたについての検討や、内部統制機能の充実に向けた検討を行った。 また、職員定数の適正化、組織体制の整備及び組織・業務の再編は、令和2年度の検討に基づき水質検査機能の統合と充実のため、水道部水質管理課に下水道部下水道施設課から水質管理部門を移管する令和3年度計画どおり「実施」し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ② 上下水道の資産・資源の有効活用 【共通】 | <p>【a評価】 上下水道の資産・資源の有効活用について、令和3年度計画どおり「(緊急時)運用・検証、(平常時)制度設定」を実施した。 令和3年度は両部で対応する必要がある災害や事故は発生しなかったが、前年度の実績（令和2年7月に発生した濁水事故）に基づき、緊急時のヒト（人材）の有効活用について、検証を行った。また平常時の市民との「防災訓練・断水体験」は、両部共同で実施する体制を継続し、市民に向けて「自助」「共助」をさらに周知をすすめた。 また、事業の健全な経営は令和3年度計画どおり「実施」し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------------|---|--------------------|
| | ③ マッピングシステムの運用拡大 【水道】 | <p>【a評価】 マッピングシステムの運用拡大について、令和3年度計画どおり「運用拡大の検討」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、部内関係課のワーキンググループによる打合せを行い、追加機能（管網解析システム）及び機器更新の仕様書を作成し、庁内審査（デジタル推進プロジェクト部会等）を経て、運用拡大の実施内容を決定した。</p> <p>運用拡大の進捗率は令和3年度計画どおり「80%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 |
|---------------------|-------|---------------------------------|-----|-----------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① 機能的な組織づくり | 活動指標 | 適正な人員配置 | 計画値 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 |
| | | | 実績値 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 | |
| | 成果指標 | 職員定数の適正化 組織体制の整備 組織、業務の再編 | 計画値 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 |
| | | | 実績値 | 実施 | 実施 | 実施 | |
| | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | |
| ◎ ② 上下水道の資産・資源の有効活用 | 活動指標 | 経営資源の活用 | 計画値 | (緊急時)運用・検証 (平常時)検討 | (緊急時)運用・検証 (平常時)制度設計 | (緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証 | (緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証 |
| | | | 実績値 | (緊急時)運用・検証 (平常時)検討 | (緊急時)運用・検証 (平常時)制度設計 | (緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証 | |
| | 成果指標 | 事業の健全な経営 | 計画値 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 |
| | | | 実績値 | 実施 | 実施 | 実施 | |
| | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|-----------------|-------|----------------|-----|---------|---------|---------|-----------|
| ③マッピングシステムの運用拡大 | 活動指標 | マッピングシステムの運用拡大 | 計画値 | 運用拡大の検討 | 運用拡大の検討 | 運用拡大の検討 | 機器更新と運用拡大 |
| | | | 実績値 | 運用拡大の検討 | 運用拡大の検討 | 運用拡大の検討 | |
| | 成果指標 | 運用拡大の進捗率 | 計画値 | 30% | 50% | 80% | 100% |
| | | | 実績値 | 30% | 50% | 80% | |
| | 達成率 | | | 100% | 100% | 100% | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | |

■ 施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | A | <p>業務の効率化について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としており、令和3年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|---|

■ 次期計画に向けて (上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | 業務の効率化について、計画どおりに実施した。 |
| 課題点 | 協議会委員より「事業実施の重要性は理解するものの、設定された活動及び成果の指標では、評価をしにくい」との意見があったことから、実施した事業を適正に評価できるような方法を検討する必要がある。 |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|--------|----|
| 評価できる点 | なし |
| 改善すべき点 | なし |

■ 今後の方向性

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <p>業務の効率化のうち、組織体制の整備などの取組は、事務事業の目標設定により管理すべき取組ではないため、基本計画である経営戦略のなかで整理していく。</p> <p>また、マッピングシステムについては、デジタル技術が急速に普及し、事業の効率化に欠かすことのできないものとなったことから、新しい技術や発想を柔軟に取り入れ、取組を検討していく。</p> |
|--------|--|

| | |
|-----|--|
| 施策名 | 5-(2) 職員の技術習得 |
| 目的 | この施策は、「各種研修の充実」及び「技術継承の仕組みづくり」の2つの事務事業により、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|------------------|---|---|
| ◎ | ①各種研修の充実 【共通】 | <p>【b評価】 各種研修の充実について、技術・事務の専門研修への派遣を令和3年度計画「135人」に対し、「84人」派遣した。次に、契約事務・法務等の内部研修の受講を令和3年度計画「350人」に対し、「323人」受講した。さらに、新採職員・転入者に向けた基礎研修の実施を令和3年度計画どおり「2回」実施した。加えて、技術系職員に向けたICT研修の開催を令和3年度計画どおり「3回」開催した。</p> <p>具体的な取組として、日本水道協会、日本下水道事業団等主催の研修への派遣、上下水道局コンプライアンス研修等の受講、上下水道局転入職員研修等の実施、デジタル技術活用研修等を開催した。</p> <p>なお、水道技術に関する資格取得度は令和3年度計画「1.6件/人」に対し、「1.5件/人」の実績で、達成率は93.8%となった。次に水道部と下水道部両部の外部研修時間は令和3年度計画「8.5時間/人」に対し、「5.1時間/人」の実績で、達成率は60.0%となった。さらに水道部と下水道部両部の内部研修時間は令和3年度計画「9.6時間/人」に対し、「9.2時間/人」の実績で、達成率は95.8%となった。3つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、成果が出ていない部分もあることから、「b」評価とした。</p> | <p>【b評価】 各種研修の実施について、計画をやや下回っている。 外部研修の成果指標未達成は、外的要因によりやむを得ない。内部研修についてはコロナ対策を十分に徹底し、達成するように努めること。</p> <p>【評価に付随した意見】 研修を受講した時間が成果指標としているが、これが成果であるかは疑問を感じる。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|----------------------|---|--------------------|
| ◎ | ②技術継承の仕組みづくり 【共通】 | <p>【a評価】 技術継承の仕組みづくりについて、令和3年度計画どおり「実施・検証」した。具体的な取組として、エスナビの受講を推進した。さらに、令和4年度採用につながるよう、高校生を対象にインターシップを実施した。 また、エスナビ研修受講率は令和3年度計画どおり「100%」の実績で達成率は100%となった。次に水道技術職員採用人数は令和3年度計画どおり「1人」の実績となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p> | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①各種研修の充実

コロナ禍であることを踏まえ、オンライン研修等への派遣割合を増やす。

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | | |
|----|----------|---------------------|---------------|---------|--------------|--------------------------|--------------------------|---------|
| ◎ | ①各種研修の充実 | 研修・資格取得計画に則った研修の実施 | 計画値 | 実施 | 実施 | | | |
| | | | 実績値 | 実施 | 実施不可 | | | |
| | | 技術・事務への専門研修への派遣 | 計画値 | | | 135人 | 135人 | |
| | | | 実績値 | | | 84人 | | |
| | | 契約事務・法務等への内部研修の受講 | 計画値 | | | 350人 | 350人 | |
| | | | 実績値 | | | 323人 | | |
| | | 新採職員・転入者に向けた基礎研修の実施 | 計画値 | | | 2回 | 2回 | |
| | | | 実績値 | | | 2回 | | |
| | | 技術系職員に向けたICT研修の開催 | 計画値 | | | 3回 | 3回 | |
| | | | 実績値 | | | 3回 | | |
| | | 成果指標 | 水道技術に関する資格取得度 | 計画値 | 1.4件/人 | 1.4件/人 | 1.6件/人 | 1.7件/人 |
| | | | | 実績値 | 1.4件/人 | 1.7件/人 | 1.5件/人 | |
| | | | 外部研修時間 | 計画値 | 8.5時間/人 | 8.5時間/人 | 8.5時間/人 | 8.5時間/人 |
| | | | | 実績値 | 8.5時間/人 | 2.1時間/人 | 5.1時間/人 | |
| | | 内部研修時間 | 計画値 | 9.0時間/人 | 9.3時間/人 | 9.6時間/人 | 10.0時間/人 | |
| | | | 実績値 | 9.2時間/人 | 7.6時間/人 | 9.2時間/人 | | |
| | | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている | |
| | | 自己評価 | | | a | b | b | |
| | | 外部評価 | | | a | b | b | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | |
|----|--------------|------|------------|-------|--------------|--------------|--------------|------|
| ◎ | ②技術継承の仕組みづくり | 活動指標 | 技術継承の仕組み | 計画値 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 | |
| | | | | 実績値 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 | |
| | | 成果指標 | エスナビ研修受講率 | 計画値 | 100% | 100% | 100% | 100% |
| | | | | 実績値 | 100% | 100% | 100% | |
| | | | 水道技術職員採用人数 | 計画値 | 0人 | 1人 | 1人 | 1人 |
| | | | | 実績値 | 0人 | 1人 | 1人 | |
| | | 達成率 | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | a | | | |

■ 施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | B | <p>職員の技術習得について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち、「技術継承の仕組みづくり」の事務事業は、計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「各種研修の充実」の事務事業は、一部事業内容の変更により、内部・外部研修とも一人当たりの受講時間数に改善が見られたが、令和2年度に引き続き令和3年度も計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|------|---|---|

| | | |
|------|---|--|
| 外部評価 | B | <p>職員の技術習得について、令和元年度は「A」評価、令和2年度は「B」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち、1つの事務事業が計画どおり、1つの事務事業が計画を下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているとはいえないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|------|---|--|

■次期計画に向けて (上下水道局)

| | |
|------------------------|--|
| 実施した点 (R1~3) | コロナ禍による影響を踏まえ、オンラインによる外部研修や感染対策を施した内部研修の実施など、改善に向けた取組を実施したものの、外部及び内部研修の時間について計画を下回る実施となった。 |
| 課題点 | <p>現在も、コロナ禍による研修への参加機会が減少するなどの影響が生じているため、eラーニングの積極的な活用や、外部研修受講者から他の職員にフィードバックする機会や、新たな内部研修を設けるなど、引き続き職員技術習得が効果的に行われるよう努めていく必要がある。</p> <p>また、施設の運転管理にかかる技術的分野については、対面による研修受講が必要不可欠であることから、コロナ禍の状況を踏まえながらも、極力外部研修に参加していく必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|--------------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる範囲で研修を開催し、一部達成されてないものもあるが、一定の成果は上がっている点を評価します。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・これから職員数が減ってくることはわかっているので、一人一人の技術習得がとても大事になってきます。そのつもりで職員の技術習得にはこれまで以上に真剣に取り組んでいただきたいです。 |

■今後の方向性

| | |
|--------------------|---|
| 今後の 方向性 | 職員の技術習得については、業務に精通した職員の退職が見込まれるなか、ベテラン職員の知識や技術の継承、専門的な知識を有する技術職員の育成が急務となっていることから、職員が身につけるべき能力等を整理し、引き続き人材育成を推進し、信頼される経営の確立に努めていく。 |
|--------------------|---|

| | |
|-----|---|
| 施策名 | 5 - (3) 財政の健全化 |
| 目的 | この施策は、「新たな収入の確保」、「企業債残高の適正な管理」、「財政計画の定期的な見直し」、「適正な債権管理」及び「収納率の向上」の5つの事務事業により、未収金を減らし料金・使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-----------------------|---|---|
| | ① 新たな収入の確保 【共通】 | <p>【c評価】 新たな収入の確保について、長期債券購入額を令和3年度計画どおり、水道は「2億円」、下水道は「11億円」購入した。また、新たな収入の検討を令和3年度計画どおり「資産の有効活用検討」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、長期債券購入では、水道事業では10年満期の地方公募債を約2億円で購入、下水道事業では20年満期の地方公募債など計11億円で購入した。新たな収入の検討では、令和2年度に契約解除となった庁舎駐車場の有料貸し出しについて、公募条件を見直し、再公募を実施した。</p> <p>成果指標である利益収入増加額としては、水道事業では、令和3年度計画「1,450千円」に対し、「1,304千円」の実績で、達成率は89.9%、下水道事業では令和3年度計画「2,601千円」に対し、「2,456千円」の実績で、達成率は94.4%となった。新たな収入額としては、再公募が契約に至らなかったため、令和3年度計画「7,154千円」に対し、実績はなく、達成率は0%であった。</p> <p>計画値と実績値の総額による達成率が33.5%であるため「c」評価とした。</p> | <p>【c評価】 新たな収入の確保について、計画を大きく下回っている。 受け身ではなく、こちらから積極的に働きかけていく姿勢は評価できる。 庁舎駐車場の有料貸し出しについては難しい取組ではあるが、財源の確保につながるため引き続きの検討・実施に努めること。</p> |
| ◎ | ② 企業債残高の適正な管理 【共通】 | <p>【a評価】 企業債残高の適正な管理について、水道事業の企業債借入額及び元金償還金が令和3年度計画「38億円」及び「24億円」に対し、「26億円」及び「24億円」となった。次に下水道事業の企業債借入額及び元金償還金が令和3年度計画「94億円」及び「105億円」に対し、「86億円」及び「105億円」となった。</p> <p>具体的な取組として、借入と償還を計画的に行い、企業債への過度な依存とならないよう適正な</p> | <p>【a評価】 企業債残高の適正な管理について、計画どおりに進捗している。 固定経費が多いと、運転の工夫が費用の節減に生きてこないため、企業債残高の減少を目指し、引き続き適正な管理に努めること。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|--------------------------------|--|---|
| | | <p>管理を実施した。</p> <p>また、水道事業の年度末における企業債残高は、令和3年度計画「455億円」に対し、「443億円」の実績で、達成率は102.7%となった。次に下水道事業の年度末における企業債残高は、令和3年度計画「1,428億円」に対し、「1,420億円」の実績で、達成率は100.6%となった。2つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |
| | <p>③ 財政計画の定期的な見直し 【共通】</p> | <p>【a評価】</p> <p>財政計画の定期的な見直しについて、次期財政計画の策定について令和3年度計画どおり「素案」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、「静岡市上下水道事業経営戦略」における財政計画について、次期計画期間中における事業を各事業課に確認し、収支の試算等を実施した。</p> <p>また、水道事業、下水道事業ともに計画策定進捗率は令和3年度計画どおり「75%」の実績で、達成率は100%となり、2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p> | / |
| | <p>④ 適正な債権管理 【共通】</p> | <p>【a評価】</p> <p>活動指標の実施内容上段の「水道料金・下水道使用料の使用者に対する現住所等調査」を、令和3年度計画「1,800件以上」に対し、「1,895件」実施した。</p> <p>中段の「受益者負担金における滞納歴が浅い人への重点督促」を令和3年度計画「1回以上」に対し、「1回」実施した。</p> <p>下段の「受益者負担金滞納者への強制徴収」を、令和3年度計画どおり実施した。</p> <p>次に成果指標の指標名上段の「水道料金未収金」は、令和3年度計画「204,175千円」に対し、「202,104千円」の実績で、計画値より未収金を1.0%削減した。</p> <p>中段の「下水道使用料未収金」は、令和3年度計画「200,656千円」に対し、「194,975千円」の実績で、計画値より未収金を2.8%削減した。</p> <p>下段の「過年度受益者負担金収納率」は強制徴収を実施した結果、令和3年度計画「12.01%」に対し「28.50%」の実績で、達成率は飛躍的に向上し237.3%となった。</p> <p>3つの成果指標のうち「水道料金未収金」が5%未満の削減であるため「a」評価とした。</p> | <p>【a評価】</p> <p>適正な債権管理について、計画どおりに進捗している。</p> <p>過年度受益者負担金の強制徴収を実施したことは評価できる。</p> <p>使用者間の公平性の観点から、継続実施に努めること。</p> |
| ◎ | <p>⑤ 収納率の向上 【共通】</p> | <p>【a評価】</p> <p>活動指標の実施内容上段の「給水停止予告通知書発送」を令和3年度計画「19,000通」に対し、「17,077通」実施した。</p> <p>中段の「受益者負担金一括納付の勧奨」を、令和3年度計画どおり「3回」実施した。</p> <p>下段の「申告書提出督促実施」を令和3年度計画どおり「1回」実施した。</p> | <p>【a評価】</p> <p>収納率の向上について、計画どおりに進捗している。</p> <p>緊急事態宣言下で市民納得のもと、高い割合で徴収できていることは評価できる。</p> |

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-------|--|--------------------|
| | | <p>なお、給水停止予告通知書発送について、実績値が計画値を下回る結果となった要因は、緊急事態宣言の発出により9月の給水停止予告通知書の発送中止及び給水停止に至る前の現年催告の強化実施により給水停止予告通知書発送対象者が削減したことによる。</p> <p>次に成果指標の指標名上段の「水道料金収納率」は令和3年度計画「99.16%」に対し、「99.10%」の実績で、達成率は99.9%となった。</p> <p>中段の「下水道使用料収納率」は令和3年度計画「99.10%」に対し、「99.11%」の実績で、達成率は100%となった。</p> <p>下段の「受益者負担金収納率」は令和3年度計画「93.62%」に対し、「95.56%」の実績で、達成率は102%となった。</p> <p>3つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p> | |

■改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

| | |
|-----------|--|
| ①新たな収入の確保 | 庁舎駐車場賃貸借業務においては、貸付条件の修正や見積期間の延長など応募しやすい条件を整え、社会環境等を踏まえた適切な時期に運営業者の公募を継続していく。 |
|-----------|--|

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | | |
|-----------|-------|--------------------|---------|---------------|---------------|--------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| ①新たな収入の確保 | 活動指標 | 長期債券購入額 水道(累計) | 計画値 | 2億円 (12億円) | 2億円 (14億円) | 2億円 (16億円) | 2億円 (18億円) | | |
| | | | 実績値 | 2億円 (12億円) | 2億円 (14億円) | 2億円 (16億円) | | | |
| | | 長期債券購入額 下水道(累計) | 計画値 | / | / | 11億円 (11億円) | 11億円 (22億円) | | |
| | | | 実績値 | / | / | 11億円 (11億円) | | | |
| | | 新たな収入の検討 | 計画値 | — | 庁舎駐車場賃貸借 | 資産の活用検討 | 資産の活用検討 | | |
| | | | 実績値 | — | 庁舎駐車場賃貸借 | 資産の活用検討 | | | |
| | | 成果指標 | 利息収入増加額 | 水道 | 計画値 | 806千円 (2,718千円) | 1,128千円 (3,040千円) | 1,450千円 (3,362千円) | 1,772千円 (3,684千円) |
| | | | | | 実績値 | 784千円 (2,696千円) | 1,036千円 (2,949千円) | 1,304千円 (3,217千円) | |
| | | | 下水道 | 計画値 | / | / | 2,601千円 | 7,902千円 | |
| | | | | 実績値 | / | / | 2,456千円 | | |
| | | | 新たな収入額 | 計画値 | — | 7,154千円 | 7,154千円 | 7,154千円 | |
| | | | | 実績値 | — | 7,154千円 | 0千円 | | |
| | 達成率 | | | | 97.2% | 計画どおり成果が出ている | 目標達成に向けて、成果が出ない | | |
| | 自己評価 | | | | a | a | c | | |
| | 外部評価 | | | | / | / | c | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | | |
|------|---------------|------|--------------------------------|---------------|---------|--------------|--------------|--------------|-------|
| ◎ | ②企業債残高の適正な管理 | 活動指標 | 水道 企業債借入額 (上段) | 計画値 | 24億円 | 30億円 | 38億円 | 35億円 | |
| | | | | 実績値 | 21億円 | 21億円 | 26億円 | | |
| | | | 元金償還金 (下段) | 計画値 | 23億円 | 23億円 | 24億円 | 25億円 | |
| | | | | 実績値 | 23億円 | 23億円 | 24億円 | | |
| | | | 下水道 企業債借入額 (上段) | 計画値 | 113億円 | 89億円 | 94億円 | 89億円 | |
| | | | | 実績値 | 96億円 | 90億円 | 86億円 | | |
| | | | | 元金償還金 (下段) | 計画値 | 109億円 | 107億円 | 105億円 | 102億円 |
| | | | | | 実績値 | 109億円 | 106億円 | 105億円 | |
| | | 成果指標 | 年度末における 企業債残高 | 計画値 | 446億円 | 450億円 | 455億円 | 453億円 | |
| | | | | 実績値 | 443億円 | 441億円 | 443億円 | | |
| | | | 上段：水道 下段：下水道 | 計画値 | 1,473億円 | 1,438億円 | 1,428億円 | 1,406億円 | |
| | | | | 実績値 | 1,456億円 | 1,439億円 | 1,420億円 | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| 外部評価 | | | | a | a | a | | | |
| | ③財政計画の定期的な見直し | 活動指標 | 次期財政 計画の策定 | 計画値 | 見直し | 見直し | 素案 | 策定 | |
| | | | | 実績値 | 見直し | 見直し | 素案 | | |
| | | 成果指標 | 計画策定 進捗率 上段：水道 下段：下水道 | 計画値 | 25% | 50% | 75% | 100% | |
| | | | | 実績値 | 25% | 50% | 75% | | |
| | | | | 計画値 | 25% | 50% | 75% | 100% | |
| | | | | 実績値 | 25% | 50% | 75% | | |
| | | 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | | 自己評価 | | | | a | a | a | |
| | | 外部評価 | | | | | | | |

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | |
|---------------|-----------|---------------------------|--------------|--------------------|----------------|--------------|--------------|------------|
| ④適正な債権管理 | 活動指標 | 水道料金・下水道使用料の使用者に対する現住所等調査 | 計画値 | 1,800 件以上 | 1,800 件以上 | 1,800 件以上 | 1,800 件以上 | |
| | | | 実績値 | 2,580 件 | 2,691 件 | 1,895 件 | | |
| | | 受益者負担金における滞納歴が浅い人への重点督促 | 計画値 | 1 回以上 | 1 回以上 | 1 回以上 | 1 回以上 | |
| | | | 実績値 | 1 回 | 2 回 | 1 回 | | |
| | | 受益者負担金滞納者への強制徴収 | 計画値 | 条件整理 | 実施手順策定 | 実施 | 実施 | |
| | | | 実績値 | 条件整理完了 手順策定一部完了 | 実施手順策定 | 実施 | | |
| | | 成果指標 | 水道料金未収金 | 計画値 | 316,585 千円 | 296,388 千円 | 204,175 千円 | 201,666 千円 |
| | | | | 実績値 | 212,953 千円 | 206,685 千円 | 202,104 千円 | |
| | | | 下水道使用料未収金 | 計画値 | 257,625 千円 | 242,111 千円 | 200,656 千円 | 188,332 千円 |
| | | | | 実績値 | 233,849 千円 | 212,981 千円 | 194,975 千円 | |
| | | | 過年度受益者負担金収納率 | 計画値 | 9.41% | 11.96% | 12.01% | 12.06% |
| | | | | 実績値 | 24.00% | 12.89% | 28.50% | |
| | 達成率 | | | | 目標以上の成果があがっている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | |
| | 自己評価 | | | | s | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | | |
| | ◎ ⑤収納率の向上 | 活動指標 | 給水停止予告通知書発送 | 計画値 | 19,000 通 | 19,000 通 | 19,000 通 | 19,000 通 |
| 実績値 | | | | 19,085 通 | 19,163 通 | 17,077 通 | | |
| 受益者負担金一括納付の勧奨 | | | 計画値 | 3 回 | 3 回 | 3 回 | 3 回 | |
| | | | 実績値 | 3 回 | 3 回 | 3 回 | | |
| 申告書提出督促実施 | | | 計画値 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | |
| | | | 実績値 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | | |
| 成果指標 | | 水道料金収納率 | 計画値 | 99.06% | 99.11% | 99.16% | 99.21% | |
| | | | 実績値 | 98.98% | 99.02% | 99.10% | | |
| | | 下水道使用料収納率 | 計画値 | 99.00% | 99.05% | 99.10% | 99.15% | |
| | | | 実績値 | 98.96% | 99.06% | 99.11% | | |
| | | 受益者負担金収納率 | 計画値 | 93.52% | 93.57% | 93.62% | 93.67% | |
| | | | 実績値 | 95.53% | 95.66% | 95.56% | | |
| 達成率 | | | | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | 計画どおり成果が出ている | | |
| 自己評価 | | | | a | a | a | | |
| 外部評価 | | | | a | a | a | | |

■ 施策評価

| | | |
|----------|---|---|
| 自己 評価 | B | <p>財政の健全化について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち、4つの事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし、「新たな収入の確保」の事務事業は、令和2年度は計画どおりの実施であったが、計画を下回る結果となった。</p> <p>以上のことから、未収金を減らし水道料金・下水道使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すという施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|----------|---|---|

| | | |
|----------|---|--|
| 外部 評価 | B | <p>財政の健全化について、令和元年度、2年度ともに「A」評価としている。</p> <p>令和3年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち、4つの事務事業で計画どおり、一つの事務事業で、計画を下回る成果となった。</p> <p>以上のことから、未収金を減らし水道料金・下水道使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すという施策の目的が達成されているとは言えないため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価とした。</p> |
|----------|---|--|

■ 次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-----------------|--|
| 実施した点 (R1～3) | <p>財政の健全化について、令和3年度に外的要因により、一部の事業で予定していた成果が出なかったものの、おおむね計画どおりに実施した。</p> |
| 課題点 | <p>財源の確保にあたり、料金・使用料収入だけでなく、新たな収入を確保していく姿勢は財政の健全化に必要であることから、計画立てした取組だけでなく、保有する資産の有効活用を柔軟に検討・実施していく必要がある。</p> <p>また、企業債残高の適正な管理や収納率の向上は、安定した事業経営に不可欠であるため、今後も継続して進行管理を実施する必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|------------|--|
| 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な経営が行われている点を評価します。 ・ 新たな収入を確保していく姿勢を評価します。 |
| 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新たな収入の確保」というのは難しい課題だと思いますが、全体としての財政の健全化、安定した事業運営にはやはり必要なことなので、良い案をひねり出していきたいです。 ・ 企業債残高を次世代に残さないようより緻密な計画をしてほしいです。 |

■ 今後の方向性

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <p>財政の健全化について、引き続き、水道料金・下水道使用料の未収金を減らし、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努め、適正な料金・使用料体系とすることで、信頼される経営の確立を目指す。</p> <p>また、新たな収入の確保や経費削減にかかる取組については、従来を取組を継続しつつ、常に改善の意識を持ち、あらゆる事業のなかで検討・実施していく。</p> |
|--------|--|

| | |
|-----|--|
| 施策名 | 5-(4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開 |
| 目的 | この施策は、「国際協力に係る情報収集と実施などの検討」及び「広域化の実施・検討」の2つの事務事業により、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指すものである。 |

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和3年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 自己評価結果 | 外部評価結果 (その他の意見) |
|----|-------------------------------|--|--------------------|
| | ① 国際協力に係る情報収集と実施などの検討 【共通】 | <p>【a評価】 国際協力に係る情報収集と実施などの検討について、国際協力に係る情報収集回数を、令和3年度計画「2回」に対し「4回」実施した。 具体的な取組として、市長部局国際交流課、JICA 中部との協議、自治体水道国際展開プラットフォーム定例会議や日本下水道事業団の国際協力に関する研修会へ出席し、先進都市の国際協力・海外展開について情報収集を実施した。 また、事例報告会開催回数は、令和3年度計画どおり「2回」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p> | |
| ◎ | ② 広域化の実施・検討 【水道】 | <p>【a評価】 広域連携の実施・検討について、課題検討・実務講習研修会等の主催を令和3年度計画どおり「14回」実施した。次に、広域連携の検討について令和3年度計画「4回」に対し、「8回」実施した。 具体的な取組として、課題検討会や実務講習・研修会などを開催し、静岡県や近隣市町との広域連携に関する会議を実施した。 また、広域連携の提案は、令和3年度計画どおり「検討」し、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p> | |

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

| 主要 | 事務事業名 | 指標 | | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 |
|----------------------|-------------|--------------------|------------------|-------|-------|-------|-------|
| ①国際協力に係る情報収集と実施などの検討 | 活動指標 | 国際協力に係る情報収集回数 | 計画値 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| | | | 実績値 | 2回 | 2回 | 4回 | |
| | 成果指標 | 事例報告会開催回数 | 計画値 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| | | | 実績値 | 2回 | 2回 | 2回 | |
| | | 海外研究員受入れ（依頼があった場合） | 計画値 | | | 実施 | 実施 |
| | | | 実績値 | | | 実施無し | |
| | 達成率 | | | 100% | 100% | 100% | |
| | 自己評価 | | | a | a | a | |
| | 外部評価 | | | | | | |
| | ◎②広域化の実施・検討 | 活動指標 | 課題検討・実務講習研修会等の主催 | 計画値 | | | 14回 |
| 実績値 | | | | | | 14回 | |
| 広域連携の検討 | | | 計画値 | 4回 | 4回 | 4回 | 4回 |
| | | | 実績値 | 5回 | 4回 | 8回 | |
| 成果指標 | | 広域連携に向けての取組の件数 | 計画値 | 2件 | 2件 | | |
| | | | 実績値 | 2件 | 2件 | | |
| | | 広域連携の提案 | 計画値 | | | 検討 | 提案 |
| | | | 実績値 | | | 検討 | |
| 達成率 | | | 100% | 100% | 100% | | |
| 自己評価 | | | a | a | a | | |
| 外部評価 | | | | | | | |

■施策評価

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | A | <p>新たな視点に立った上下水道事業の展開について、令和元年度、2年度ともに「A」評価となり、令和3年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価とした。</p> |
|------|---|---|

■次期計画に向けて
(上下水道局)

| | |
|-------------------------|---|
| <p>実施した点 (R1~3)</p> | <p>新たな視点に立った上下水道事業の展開について、計画どおりに実施した。</p> |
| <p>課題点</p> | <p>国際協力については、協議会委員から「市内の利用者により支払われているものであるため、その収入は管や施設への投資など、利用者の利益につながるものに使っていただきたい」という意見があったことや、人的余裕がない実情から、上下水道事業を継続していくために必要不可欠な、耐震化事業や、更新事業に人的資源を注力していく必要がある。</p> <p>また、広域連携については、全県下で新たな事業連携の在り方の検討が進められていることから、改めて本市として他事業体との連携に係る考え方を明らかにしていく必要がある。</p> |

(上下水道事業経営協議会)

| | |
|--------------------|--|
| <p>評価 できる点</p> | <p>なし</p> |
| <p>改善 すべき点</p> | <p>・「①国際協力に係る情報収集と実施などの検討」について、委員からは「料金収入は住民に還元すべき」との意見や、市側からは「人的余裕がないために、国際協力ではなく事業運営に人的資源を充てたい」との説明がありますが、中期経営計画に目標を掲げているにも関わらず後ろ向きな姿勢が少々残念です。他都市が参加する会合で情報収集をされているようですので、「国際協力をすると、職員に、住民にどのような還元があるか」を整理し、次期経営計画に実行可能な目標として反映されることを期待します。個人としては、維持管理しか経験のない職員に、途上国の整備拡張の経験をさせて事業の本質を理解させることや日本の水道創生期に先進国から支援してもらった恩を返す意味でも国際協力は必要であるという立場です（あくまで通常業務に支障をきたさない範囲で、ですが）。</p> |

■今後の方向性

| | |
|--------------------|--|
| <p>今後の 方向性</p> | <p>新たな視点に立った上下水道事業の展開のうち、広域化については、中長期的な視野で検討を行い、近隣事業体と連携について協議・検討を継続していく。</p> <p>また、上下水道事業の機能を確保するための管・施設の老朽化対策や、重点地区への浸水対策など、現時点ではこれら重要事業へ最優先に人的資本を注力することとし、国際協力については情報収集に留め、将来的な実施の可能性を検討していく。</p> |
|--------------------|--|

審議経緯

| 回数 | 開催日時 | 議 事 等 |
|-----|-----------------------------|---|
| 第1回 | 令和4年5月13日(金) 13:30~16:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・改善した取組 ・外部評価対象の決定 ・令和3年度施策等の進行管理 事務事業の自己評価説明・外部意見聴取 |
| 第2回 | 令和4年7月8日(金) 13:30~16:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度施策等の進行管理 ①事務事業の外部評価意見まとめ・決定 ②施策の自己評価説明・外部意見聴取 |
| 第3回 | 令和3年9月2日(金) 13:30~16:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度施策等の進行管理 施策の外部評価意見まとめ・決定 |

第6期 静岡市上下水道事業経営協議会 委員名簿

| 役職 | 氏名 | 所属団体等 |
|------------------|--------------------|-----------------------|
| 会長 | すずき まなぶ 鈴木 学 | 龍谷大学 経営学部 教授 |
| 副会長 | しおの とし はる 塩野 敏晴 | 静岡経済研究所 主席研究員 |
| 委員 | うまい きよこ 馬居 喜代子 | 市民委員 |
| | かの みさこ 狩野 美佐子 | 市民委員 |
| | すずき たくや 鈴木 拓也 | 静岡大学大学院 人文社会科学研究科 准教授 |
| | たかぎ みえこ 高木 美恵子 | 株式会社 第一クエイティブ 代表取締役 |
| | たかまつ ゆか 高松 由佳 | 市民委員 |
| | たき よしひろ 瀧 義弘 | 静岡市自治会連合会 副会長 |
| | ながの だいすけ 永野 大輔 | 日本下水道事業団 静岡事務所長 |
| | はしもと まさこ 橋本 正子 | しずおか市消費者協会 理事 |
| | はつしば みすず 初芝 美寿々 | 日本水道協会 調査部 調査課 広報係長 |
| | ほりずみ きょうこ 堀住 京子 | 地域デザインカレッジ修了生 |
| よこざわ ゆみ 横澤 由美 | 市民委員 | |

第4次静岡市上下水道事業中期経営計画

令和3年度 評価報告書

令和5年3月

静岡市上下水道事業経営協議会
